

「令和 6 年度市民意識調査」
報告書

令和 7 年 1 月 23 日

行方市

調査の概要

1. 趣旨

市の現状やまちづくりの取り組みに対する満足度、市民が重要と感じている施策や課題、社会情勢から重点的な取り組みが必要な課題など、市民の市政に関する満足度等の市民意識から政策的課題を把握し、市民ニーズを的確に市政に反映するために実施するもの。

2. 調査の方法

(1) 調査時期

・令和6年7月1日～7月31日

(2) 調査対象

・行方市在住の満18歳以上の市民

(3) 調査方法

・インターネット調査(市ホームページ)、(一部、紙調査)

(4) 回答結果

対象数	回答件数
令和6年度 市民:31,710人(R6.7.1現在。 回答対象とならない17歳以下も含む)	487件
【参考】 対象数	回収件数(回収率)
令和5年度 市民:32,152人(R5.11.1現在。 回答対象とならない17歳以下も含む。)	468件
令和4年度(2,000人送付)	448件(22.40%)
令和3年度(1,000人送付)	367件(36.70%)
令和2年度(3,000人送付)	696件(23.20%)
令和元年度(平成31年度)(1,000人送付)	378件(37.80%)
平成30年度(1,000人送付)	404件(40.40%)
平成29年度(1,000人送付)	297件(29.70%)
平成28年度(1,000人送付)	362件(36.20%)

3. 調査項目

【共通項目】

- ① 市政への関心・市への愛着・幸福度について
- ② 暮らしやすさについて
- ③ まちづくりへの満足度
- ④ 健康づくりについて
- ⑤ 少子化・高齢化の取り組みについて
- ⑥ 地域づくりについて

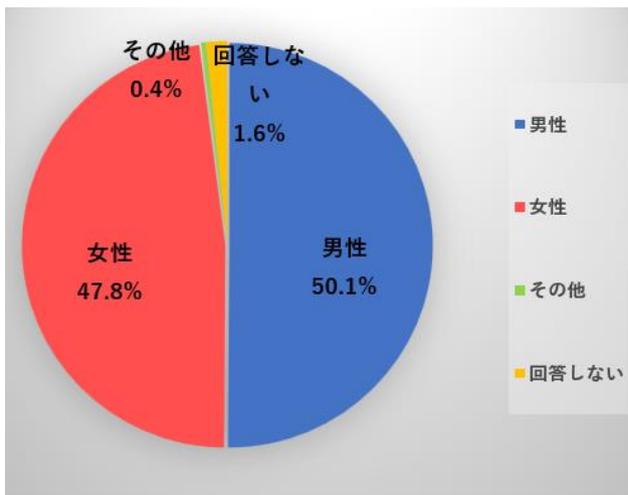
⑦ 情報伝達について

【特集項目】

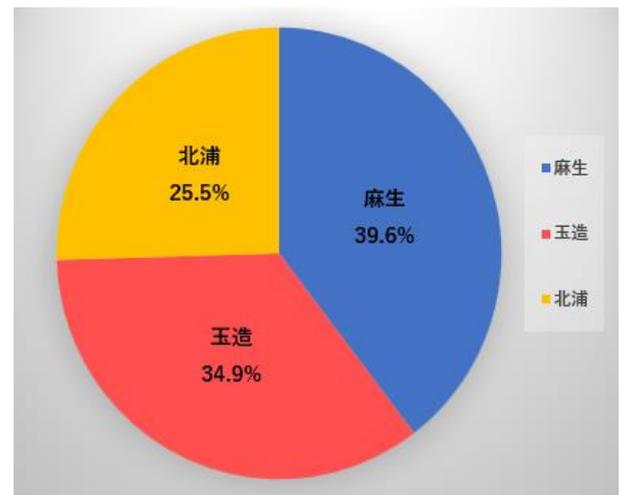
- ①市民サービスの向上に向けた取り組みについて(移動市役所)
- ②地域公共交通と移動手段について
- ③地球温暖化問題及び再生可能エネルギーについて
- ④社会教育に関することについて

4. 回答者属性

(1) 性別



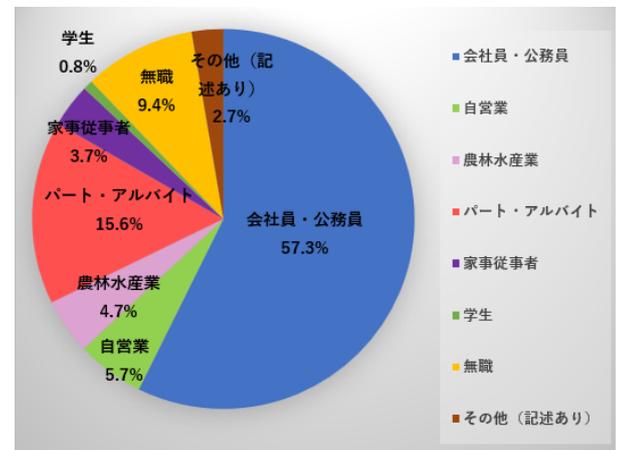
(2) 地区



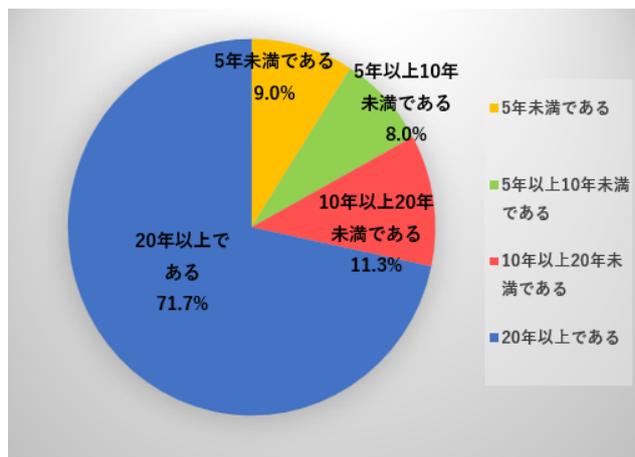
(3) 年齢



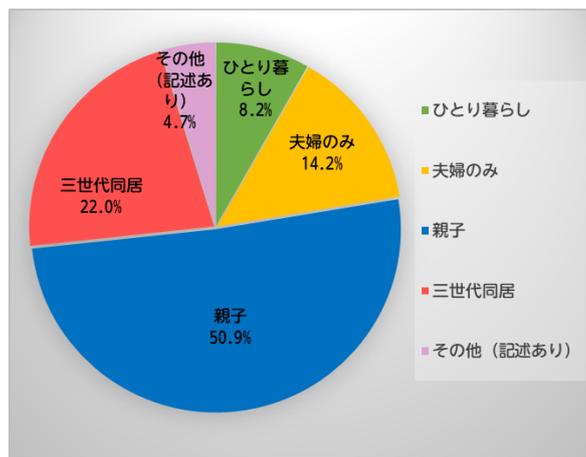
(4) 職業



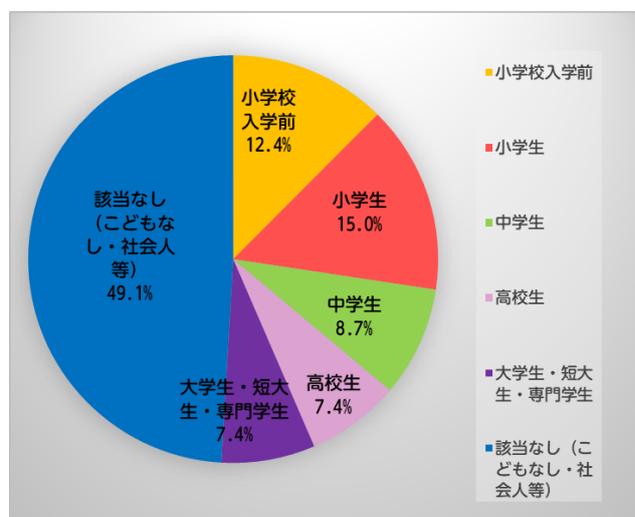
(5) 居住年数



(6) 世帯構成



(7) 子どもの就学状況

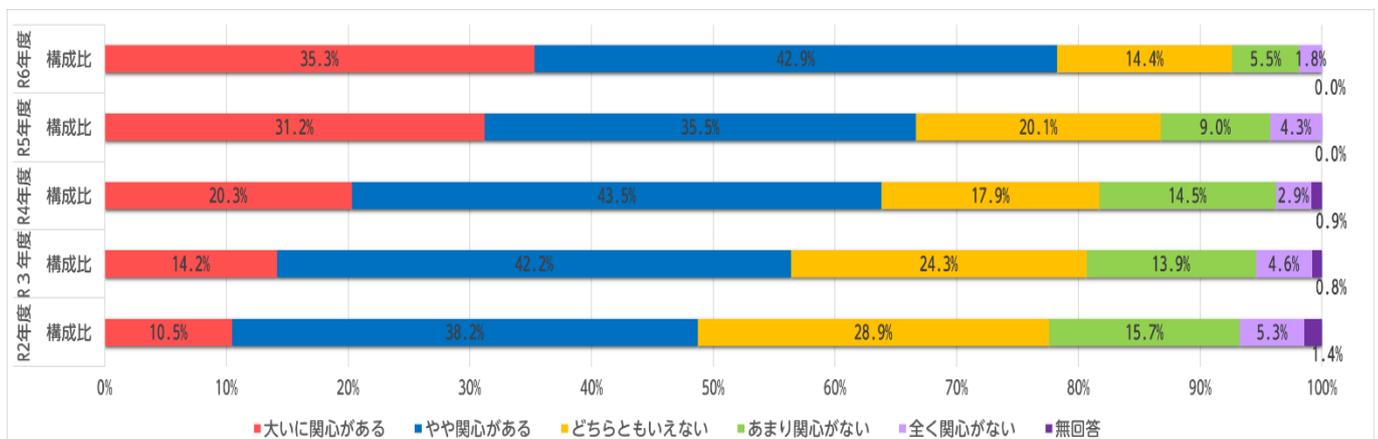
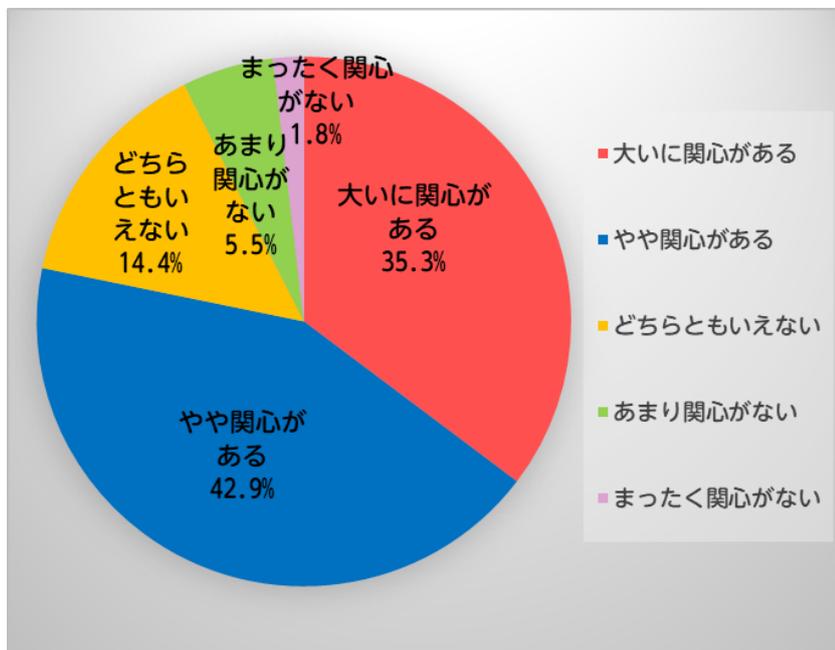


結果

【共通項目】

1. 市政への関心・市への愛着・幸福度について

問 1 行方市の市政に関心はありますか。(回答を1つ)

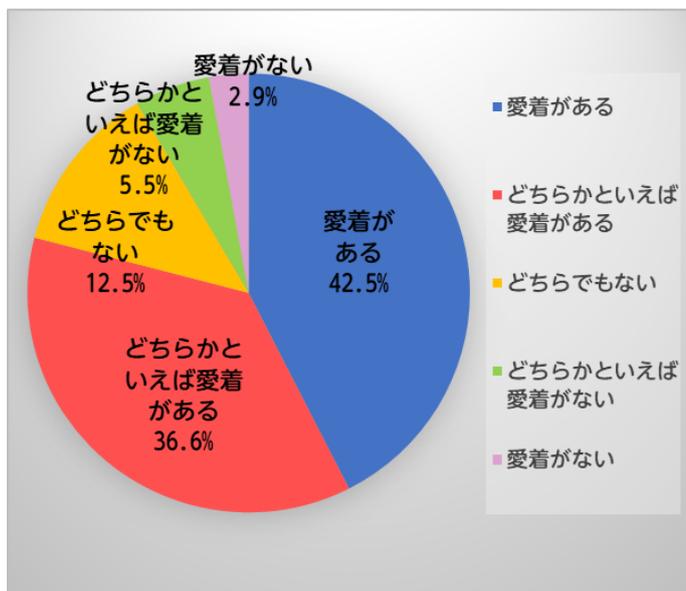


○市政に「大いに興味がある」「やや興味がある」と回答した割合が78.2%と前年度比で11.5ポイント増となった。これまでの調査結果から市政への関心が年々高まってきていることがわかる。

○年齢層別クロス集計の結果、「あまり関心がない」「全く関心がない」と回答した割合が最も高かった年齢層は20歳代で9.7%だった。反対に70歳代以上の同回答割合は0%（回答数少数）だった。若年層の市政への関心の低さ、高齢層の市政への関心の高さが伺える。

○職業別クロス集計の結果、農林水産業者の「大いに興味がある」「やや興味がある」と回答した割合は82.6%で、「あまり関心がない」「全く関心がない」と回答した割合は0%だった。

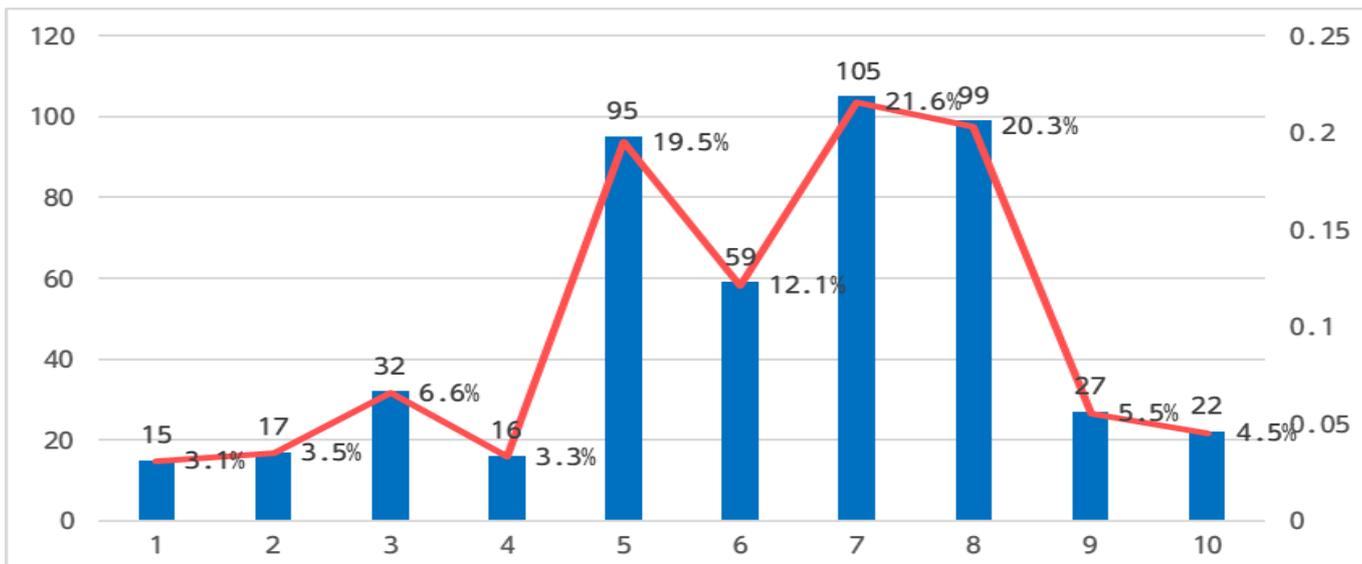
問2 行方市に愛着を持っていますか。(回答を1つ)



○市に「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」と回答した割合が79.1%で、およそ8割が「愛着がある」との回答だった。

○居住年数別クロス集計の結果、「愛着がある」「どちらかといえば愛着がある」と回答した割合が最も高かったのは「20年以上である」と回答した市民で82.2%だった。

問3 現在、どのくらいの幸福を感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を1点として、あてはまる点数をお選びください。(回答を1つ)



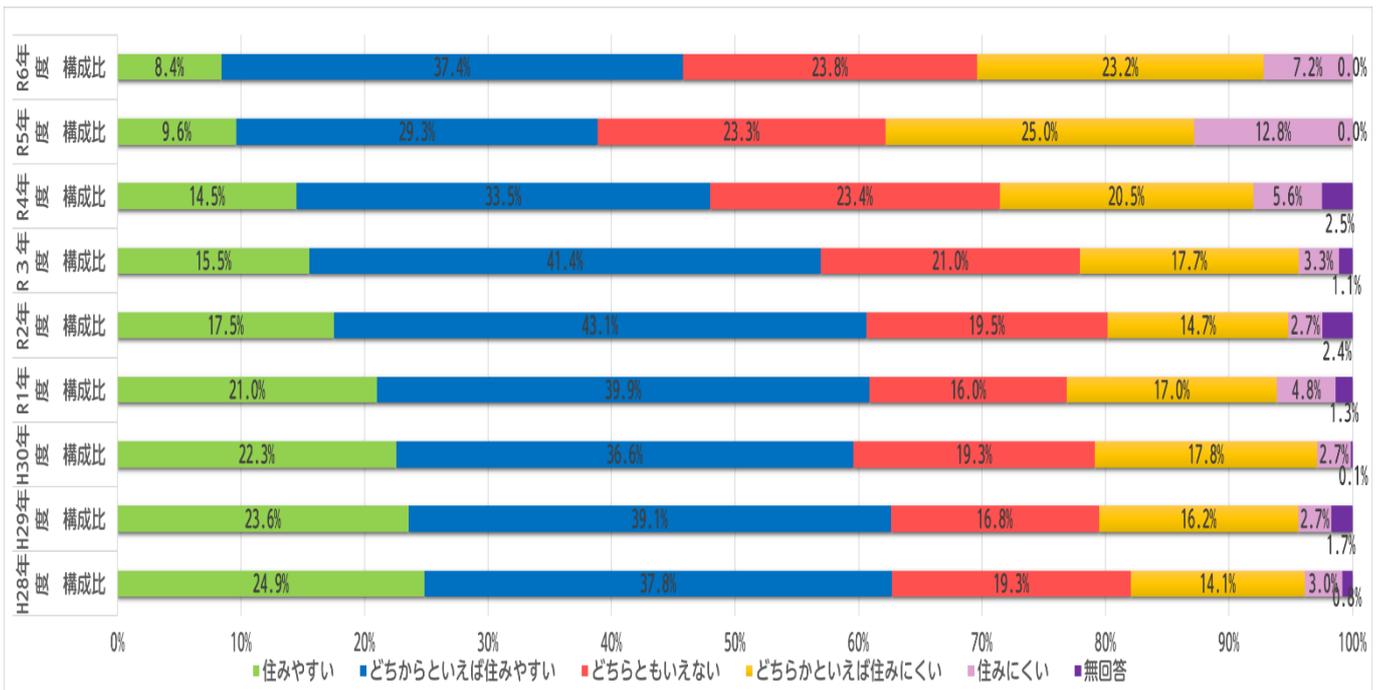
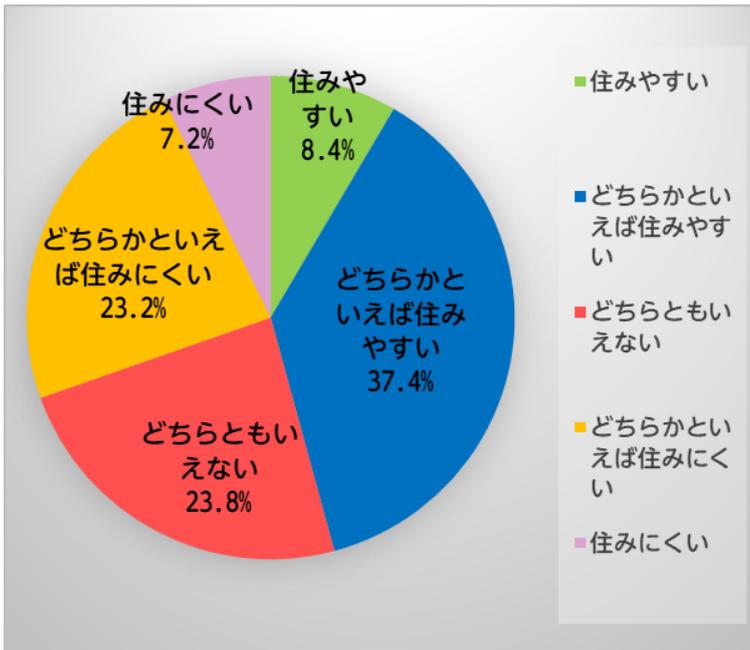
○幸福度の平均値は6.21で、茨城県の幸福度の平均値 6.4(デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標」より)と類似した結果となった。

○性別クロス集計の結果、男性は7と回答した割合が25%で最も高く、女性は8と回答した割合が27.5%で最も高かった。

○最も平均値が高かった年齢層は20歳代の6.6で(回答数が少なかった10歳代の7.5を除く)、最も平均値が低かった年齢層は40歳代の5.9だった。

2.暮らしやすさについて

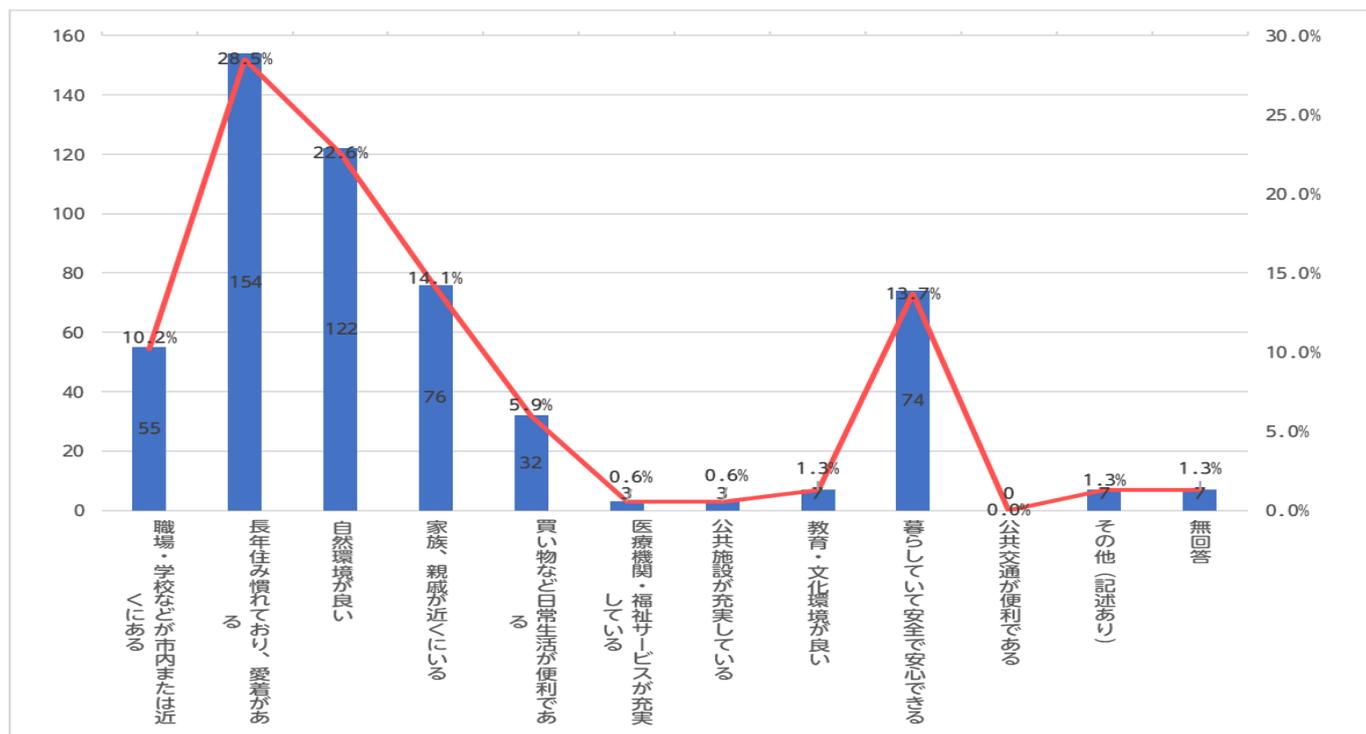
問 4 行方市の「住み心地」についてどう感じていますか。(回答を1つ)



- 住み心地について「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した割合は 45.8%で、令和5年度と比べると 6.9 ポイント増だった。
- 「住みやすい」と回答した割合は 8.4%で、割合が年々減っている。
- 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した割合が最も高かった年齢層は、20 歳の 34.2%だった。
- 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と回答した割合が最も高かった職業は、自営業者と学生(回答数少数)の 50%だった。

【問4で『1.住みやすい・2.どちらかといえば住みやすい』を選んだ方のみ回答】

問5 住みやすいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで)



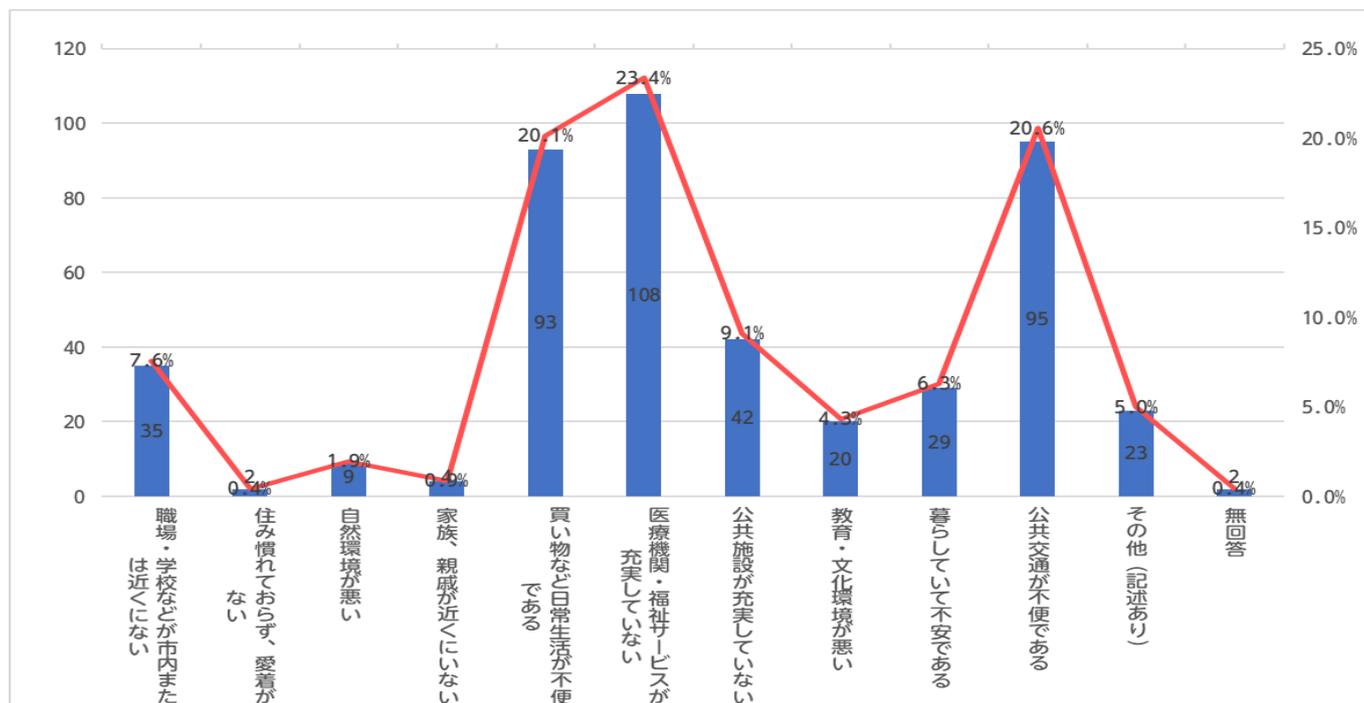
○住みやすいと感じる理由について「長年住み慣れており、愛着がある」と回答した割合が28.9%と最も高く、「自然環境が良い」と回答した割合が22.6%で2番目に高かった。

○居住年数別の回答した割合が最も高かった選択肢は以下のとおり。

- ・5年未満:「買い物など日常生活が便利である」(24.4%)
- ・5年以上10年未満:「家族、親戚が近くにいる」(25.7%)
- ・10年以上15年未満:「自然環境が良い」(23.6%)
- ・20年以上:「長年住み慣れており、愛着がある」(33.5%)

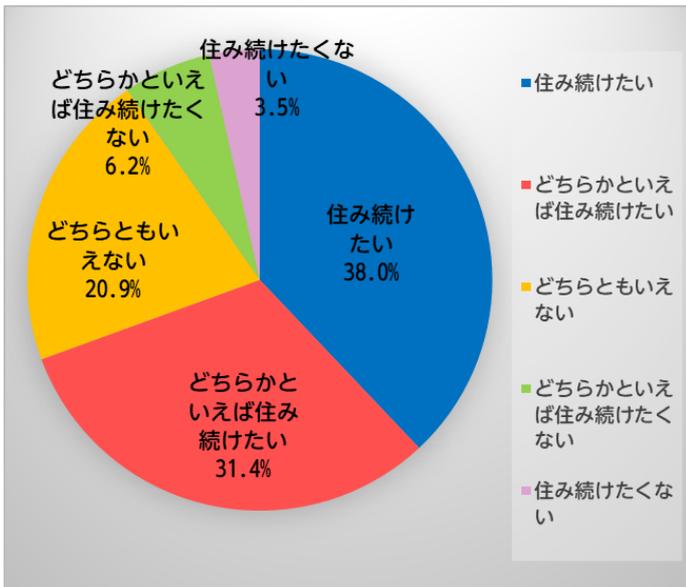
【問4で『4.どちらかといえば住みにくい・5.住みにくい』を選んだ方のみ回答】

問6 住みにくいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで)



- 住みにくいと感じる理由について「医療機関・福祉サービスが充実していない」と回答した割合が 23.4%で最も高かった。
- 「医療機関・福祉サービスが充実していない」と回答した割合が最も高かった年齢層は 30 歳代の 26%で、「買い物など日常生活が不便である」と回答した割合が最も高かった年齢層は 70 歳代の 28.6%だった。
- 地区別クロス集計の結果、麻生地区・玉造地区では「医療機関・福祉サービスが充実していない」と回答した割合が最も高く、北浦地区では「買い物など日常生活が不便である」と回答した割合が最も高かった。

問 7 今後も行方市に住み続けたいと思いますか。(回答を1つ)

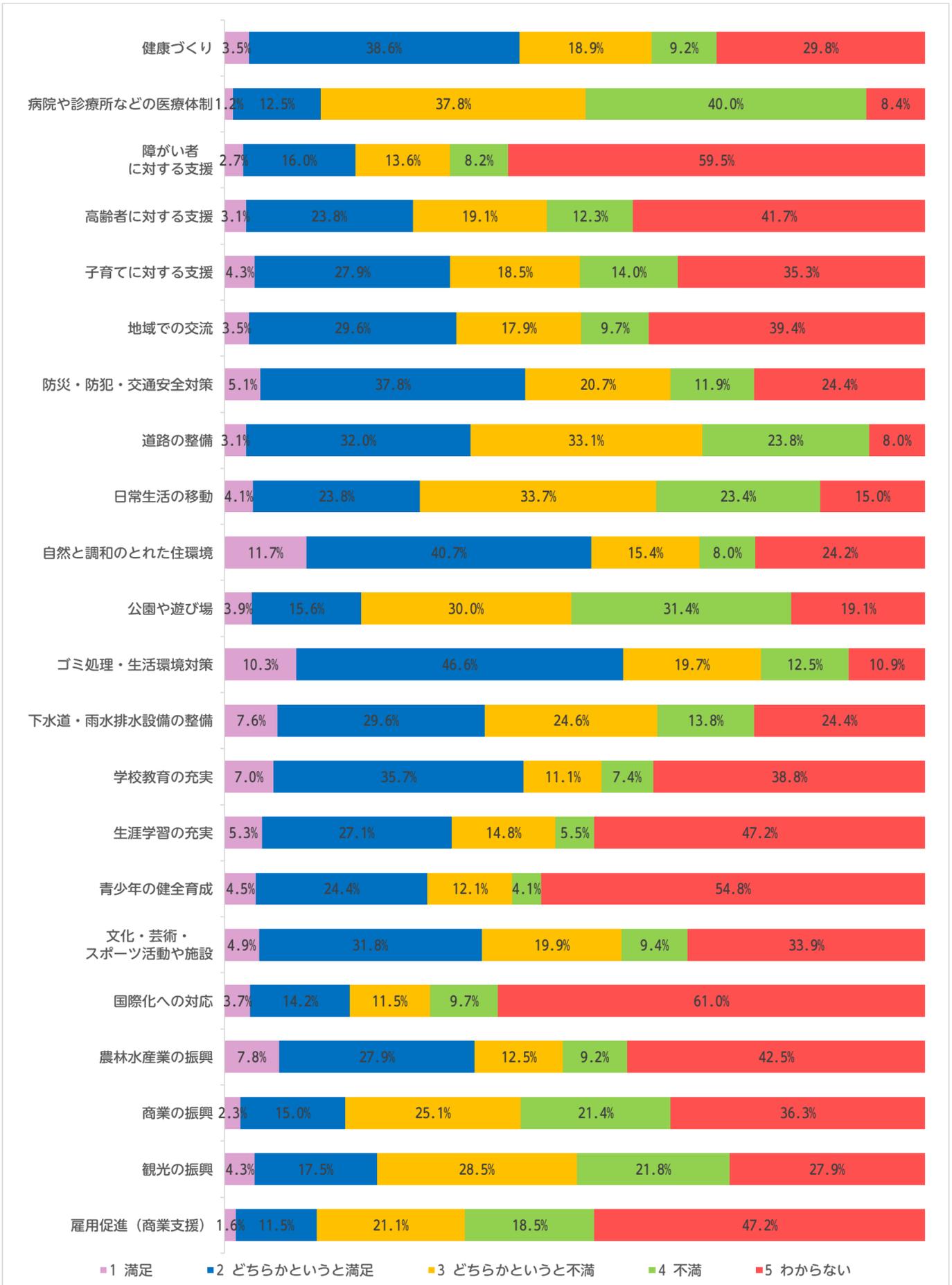


- 今後も市に「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合が 69.4%、「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」と回答した割合は 9.7%だった。
- 職業別では、自営業者は「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合が 46.4%、「どちらかといえば住み続けたくない」「住み続けたくない」と回答した割合が 25%となり、総計に比べて住み続けたくないと思う割合が高かった。

3.まちづくりへの満足度

問 8 普段の生活の中で、次の項目の取り組みについて、どの程度満足していますか。

(項目ごとに回答を1つ)



○「満足」「どちらかという満足」「どちらかという不満」「不満」「わからない」の5つを選択肢として設定。

【満足の割合が高い上位3項目】（「満足」+「どちらかという満足」）

- ・「ゴミ処理・生活環境（騒音・悪臭など）対策」（56.9%）
- ・「自然と調和のとれた住環境」（52.4%）
- ・「防災・防犯・交通安全対策」（42.9%）

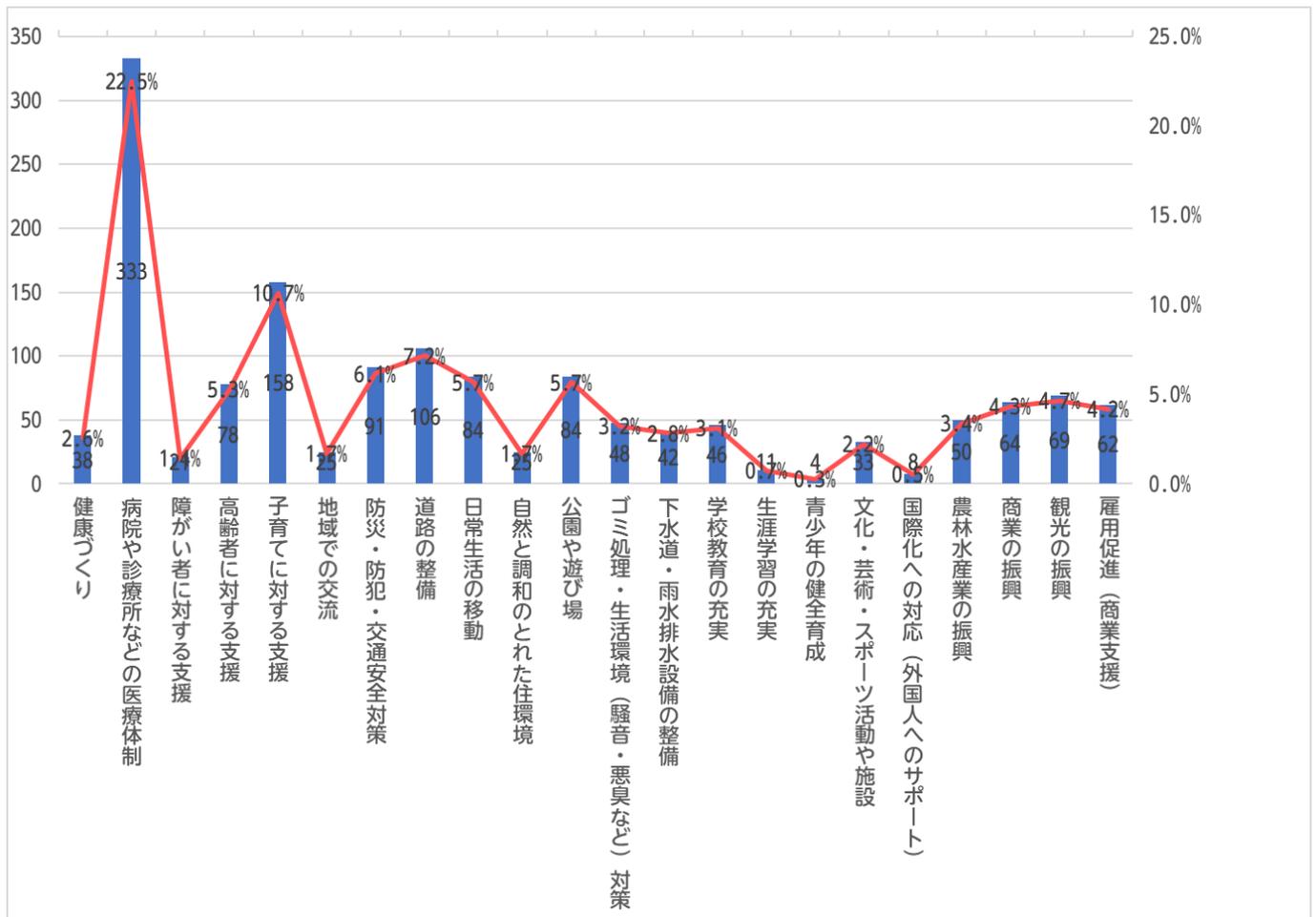
【不満の割合が高い上位3項目】（「どちらかという不満」+「不満」）

- ・「病院や診療所などの医療体制」（77.8%）
- ・「公園や遊び場」（61.4%）
- ・「日常生活の移動」（57.1%）

- ① 「健康づくり」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 42.1%だった。職業別では、農林水産業者が「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 60.8%で最も高かった。
- ② 「病院や診療所などの医療体制」について、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 77.8%で、問8の設問中で最も高かった。すべての年齢層で半数以上が「どちらかという不満」「不満」と回答した。
- ③ 「障がい者に対する支援」について、「わからない」と回答した割合は 59.5%で最も高かった。
- ④ 「高齢者に対する支援」について、「わからない」と回答した割合は 41.7%で最も高かった。年齢層別では、60 歳代・70 歳代で「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は約 50%で他の年代より高かった。
- ⑤ 「子育てに対する支援」について、「わからない」と回答した割合(35.3%)を除くと、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 32.2%、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 32.5%でほとんど同率だった。年齢層別では、30 歳代・40 歳代で「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は約 45%で他の年代に比べて高かった。
- ⑥ 「地域での交流」について、「わからない」と回答した割合は 39.4%で最も高かった。年齢層別では、70 歳代以上で「満足」「どちらかという満足」と回答した割合が高かった。
- ⑦ 「防災・防犯・交通安全対策」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 42.9%、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 32.6%だった。年齢層別では、10～30 歳代で「満足」「どちらかという満足」と回答した割合はいずれも 50%を超えていた。
- ⑧ 「道路の整備」について、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 56.9%だった。「どちらかという不満」「不満」と回答した割合が最も高かった年齢層は 40 歳代で 63.2%だった。
- ⑨ 「日常生活の移動」について、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 57.1%だった。「どちらかという不満」「不満」と回答した割合が最も高かった年齢層は 40 歳代で 63.3%だった。
- ⑩ 「自然と調和のとれた住環境」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 52.4%だった。「満足」と回答した割合は 11.7%で問8の設問中で最も高かった。

- ⑪ 「公園や遊び場」について、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 61.4%だった。年齢層別では、20 歳代の「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 31.7%で総計より 10 ポイント程高かった。
- ⑫ 「ゴミ処理・生活環境(騒音・悪臭など)対策」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 56.9%で、問8の設問中で最も高かった。「満足」「どちらかという満足」と回答している割合を地区別にみると、麻生地区で 63.7%、玉造地区で 55.3%、北浦地区で 48.3%だった。
- ⑬ 「下水道・雨水排水設備の整備」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 37.2%、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 38.4%だった。「満足」「どちらかという満足」と回答した割合を地区別にみると、玉造地区で 47.7%、麻生地区で 34.8%、北浦地区で 26.7%と地域差があった。
- ⑭ 「学校教育の充実」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 42.7%、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 18.5%だった。「わからない」と回答した割合は 38.8%だった。年齢層別では、10 歳代、20 歳代の「満足」「どちらかという満足」と回答した割合はそれぞれ 100%(回答数少数)、53.7%で他の年代より高かった。
- ⑮ 「生涯学習の充実」について、「わからない」と回答した割合は 47.2%で最も高かった。
- ⑯ 「青少年の健全育成」について、「わからない」と回答した割合は 54.8%で最も高かった。
- ⑰ 「文化・芸術・スポーツ活動や施設」について、「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 36.7%、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 29.3%だった。「わからない」と回答した割合は 33.9%だった。
- ⑱ 「国際化への対応(外国人へのサポート)」について、「わからない」と回答した割合は 61%で問8の設問中で最も高かった。
- ⑲ 「農林水産業の振興」について、「わからない」と回答した割合は 42.5%と最も高かった。職業別では、農林水産業者は「満足」「どちらかという満足」と回答した割合は 39.1%、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 52.1%だった。
- ⑳ 「商業の振興」について、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 46.5%だった。職業別では、自営業者は「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 67.9%だった。
- ㉑ 「観光の振興」について、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 50.3%だった。年齢層別では、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 60 歳代で 60.8%、70 歳代で 62.5%と他の年齢層より高かった。
- ㉒ 「雇用促進(商業支援)」について、「わからない」と回答した割合は 47.2%で最も高かった。「どちらかという不満」「不満」と回答した割合は 39.6%だった。職業別では、「どちらかという不満」「不満」と回答した割合が最も高かったのは自営業者で 50%だった。

問9 問8の取り組みの中で、あなたが市に求める特に重要な取り組みは何ですか。(回答を3つまで)



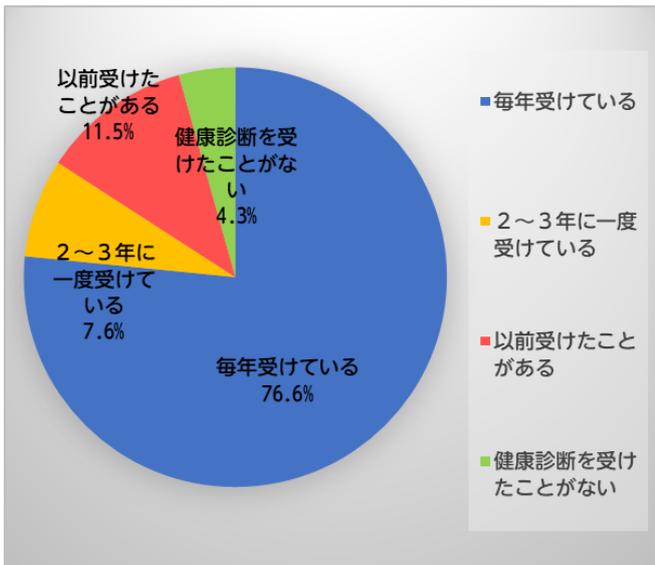
○特に重要な取り組みについて「病院や診療所などの医療体制」が 22.5%と最も高かった。次いで「子育てに対する支援」10.7%、「道路の整備」7.2%となった。

○年齢層別の回答割合が高かった上位3項目は以下のとおり。

- ・10 歳代:1位「健康づくり」「防災・防犯・交通安全対策」「道路の整備」「日常生活の移動」「ゴミ処理・生活環境対策」「観光の振興」(全て 16.7%)
- ・20 歳代:1位「病院や診療所などの医療体制」(20.5%)、2位「子育てに対する支援」(17%)、3位「公園や遊び場」(9.8%)
- ・30 歳代:1位「病院や診療所などの医療体制」(21.1%)、2位「子育てに対する支援」(18.1%)、3位「公園や遊び場」(9.4%)
- ・40 歳代:1位「病院や診療所などの医療体制」(22.7%)、2位「子育てに対する支援」(13.8%)、3位「公園や遊び場」(7.3%)
- ・50歳代:1位「医療や診療所などの医療体制」(23%)、2位「防災・防犯・交通安全対策」(8.1%)、3位「日常生活の移動」(7.8%)
- ・60歳代:1位「病院や診療所などの医療体制」(23.8%)、2位「高齢者に対する支援」(9.7%)、3位「道路の整備」(8.9%)
- ・70歳代:1位「病院や診療所などの医療体制」(22.2%)、2位「防災・防犯・交通安全対策」(10%)、3位「道路の整備」(7.8%)
- ・80歳代:1位「病院や診療所などの医療体制」(33.3%)、2位「高齢者に対する支援」「下水道・雨水排水設備の整備」(14.3%)

4.健康づくりについて

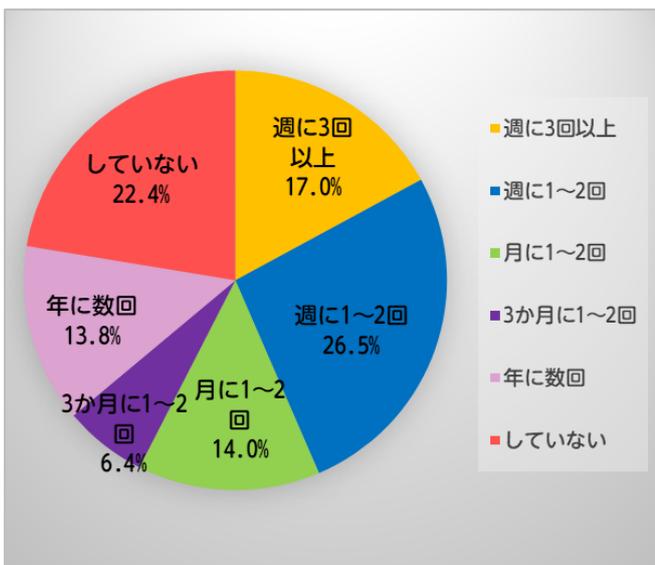
問10 健康診断を受けていますか。(回答を1つ)



- 健康診断を「毎年受けている」と回答した割合が 76.6%で最も高かった。
- 年齢層別では、50 歳代の 86%が「毎年受けている」と回答している一方、20 歳代の 12.2%が「健康診断を受けたことがない」と回答している。
- 職業別では、自営業者の「健康診断を受けたことがない」と回答している割合は 25%で最も高かった。

問11 この1年間にスポーツや運動をしましたか。(回答を1つ)

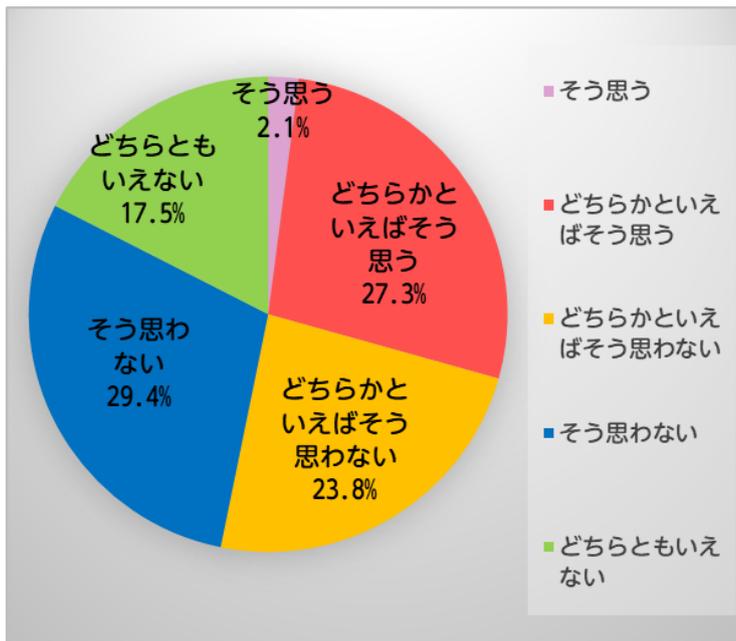
※体を動かすことを目的とした軽い運動(ウォーキング・サイクリング・ヨガ・ダンス・体操等)も含む。



- 週に 1 回以上の運動をしていると回答した割合が 43.5%であった。特に 10 歳代、20 歳代及び 60 歳代以降の層ではおおむね5割以上だった。
- 年齢層別では、「運動をしていない」と回答した割合は 70 歳代で 43.8%となり、他の年代に比べ 2 倍程度高かった。
- 職業別では、自営業者、農林水産業者は、「週に1～2回以上の運動をしている」と回答した割合が 20%台で他の属性よりも低かった。

5.医療・健康について

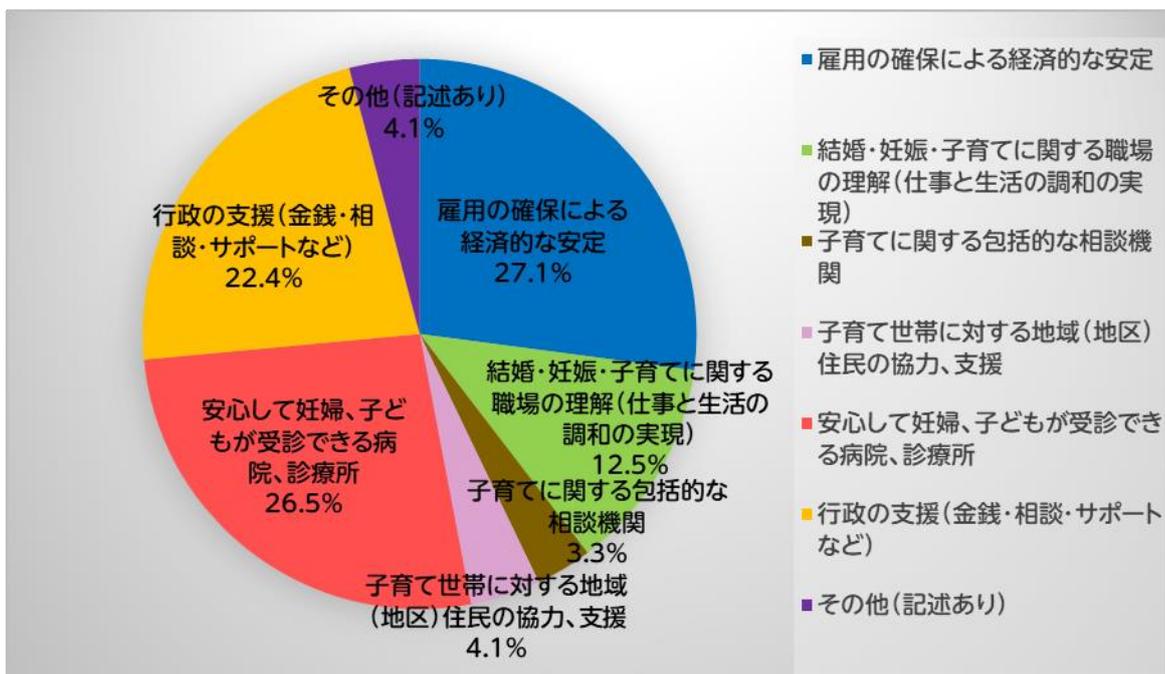
問12 行方市は安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)



○市は安心して子どもを産み育てられる環境が整っているかについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は 29.4%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は 53.2%であった。

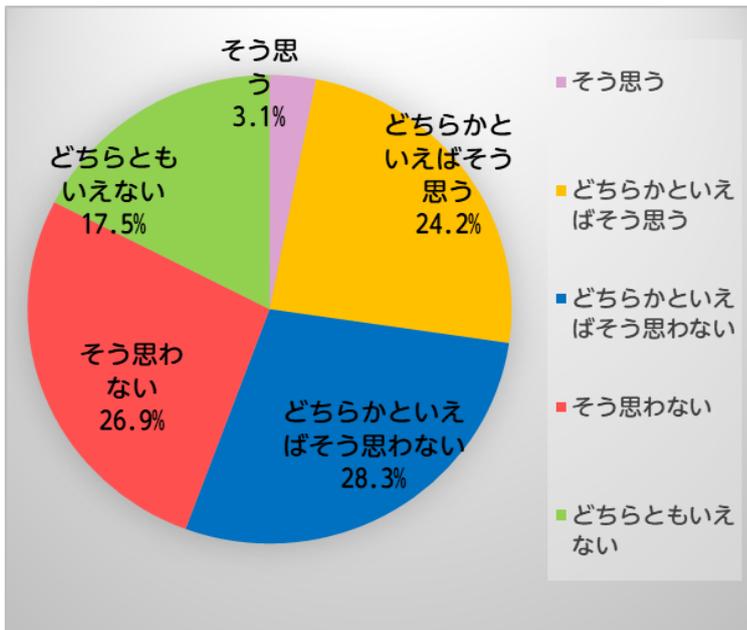
○性別では、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は、男性 57.8%、女性 48.1%で10ポイント程度開きがあった。

問13 安心して結婚・妊娠・子育てをするために、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



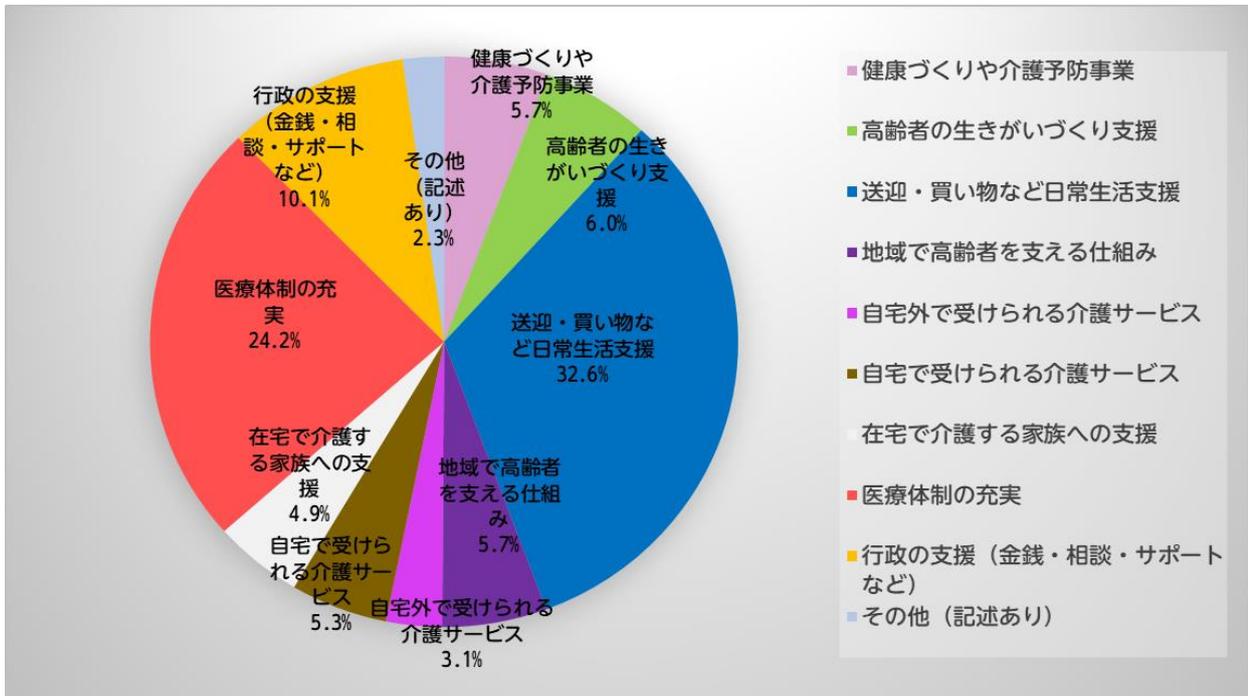
○安心して結婚・妊娠・子育てをするために、最も重要なものについて「雇用の確保による経済的な安定」と回答した割合が 27.1%で最も高く、次いで「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」26.5%、「行政の支援(金銭・相談・サポートなど)」22.4%だった。

問14 行方市は高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)



○市は高齢者が安心して住み続けられる環境が整っているかについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は27.3%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は55.2%だった。
 ○「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が最も高かった年齢層は50歳代で63.2%だった。

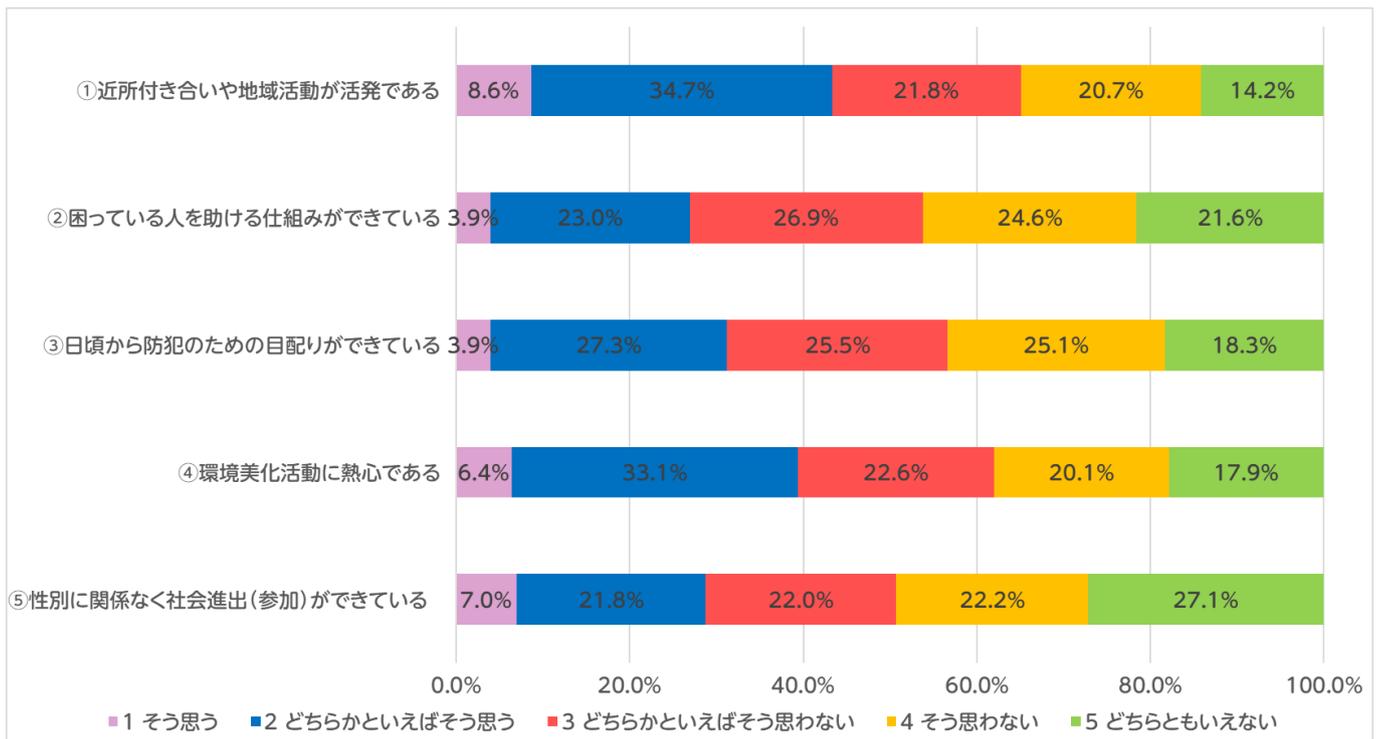
問15 高齢者が安心して住み続けられるための取り組みとして、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



○高齢者が安心して住み続けられるための取り組みとして、最も重要なものについて50歳以上の年齢層別の回答割合が高かった上位3項目は以下のとおり。
 ・50歳代：1位「送迎・買い物など日常生活支援」(30.7%)、2位「医療体制の充実」(26.3%)、3位「行政の支援(金銭・相談・サポートなど)」(10.5%)
 ・60歳代：1位「送迎・買い物など日常生活支援」(31.6%)、2位「医療体制の充実」(24.1%)、3位「行政の支援(金銭・相談・サポートなど)」(13.9%)
 ・70歳代：1位「高齢者の生きがいがづくり支援」(21.9%)、2位「医療体制の充実」(18.8%)、3位「送迎・買い物など日常生活支援」「地域で高齢者を支える仕組み」「行政の支援(金銭・相談・サポートなど)」(全て12.5%)
 ・80歳代以上：1位「医療体制の充実」(42.9%)、2位「健康づくりや介護予防事業」「送迎・買い物など日常生活支援」(全て28.6%) (回答数少数)

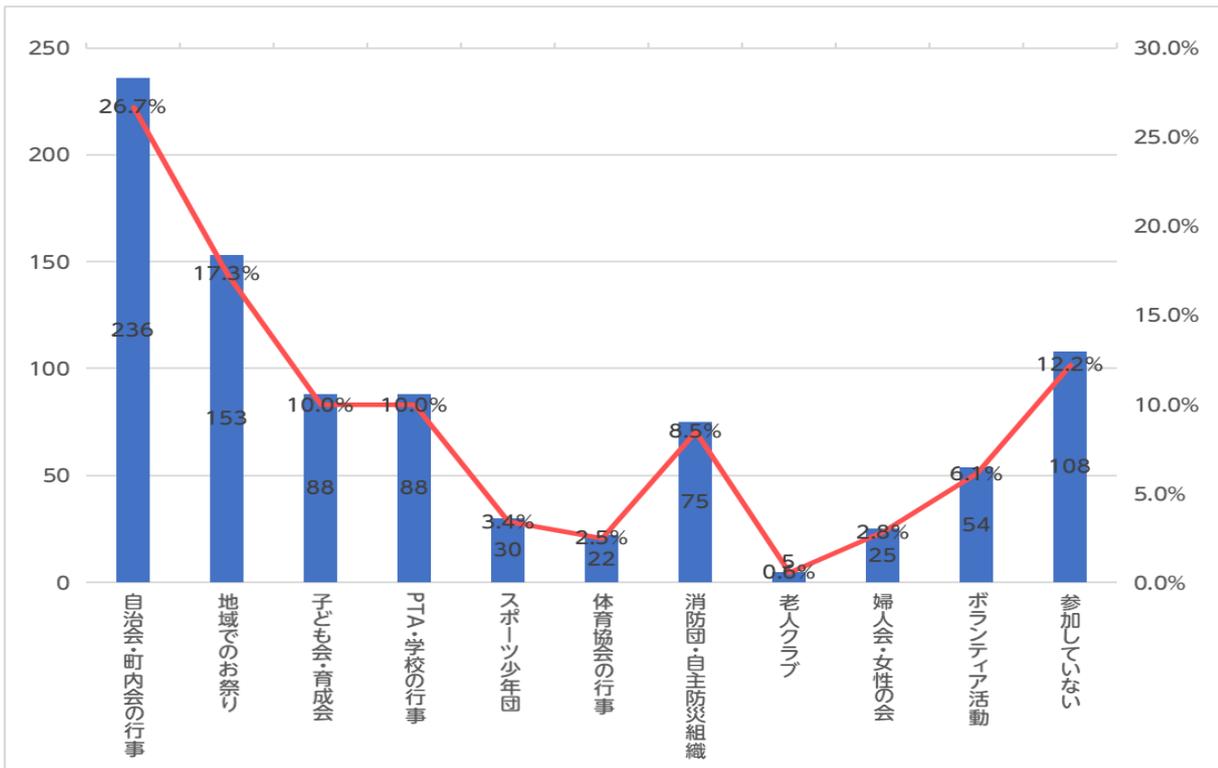
6.地域づくりについて

問16 住んでいる地区に対して、次の項目についてどう感じていますか。(項目ごとに回答を1つ)



- ①「近所付き合いや地域活動が活発である」について、地区別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、麻生地区が 47.6%、玉造地区が 42.4%、北浦地区が 37.9%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた割合は、麻生地区が 38.4%、玉造地区が 43%、北浦地区が 48.4%で、麻生地区と北浦地区で 10 ポイント程度開きがあった。
- ②「困っている人を助ける仕組みができています」について、地区別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、麻生地区が 30%、玉造地区が 26.5%、北浦地区が 22.6%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた割合は、麻生地区が 47.1%、玉造地区が 53.5%、北浦地区が 55.6%で、麻生地区と北浦地区で8ポイント程度開きがあった。
- ③「日頃から防犯のための目配りができています」について、地区別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は、麻生地区が 35.2%、玉造地区が 30.6%、北浦地区が 25.8%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えた割合は、麻生地区が 46.2%、玉造地区が 53%、北浦地区が 54%で、麻生地区と北浦地区で 10 ポイント程度開きがあった。
- ④「環境美化活動に熱心である」について、地区別では唯一麻生地区のみが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」(回答割合 43.5%)が、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」(回答割合 38.3%)を上回った。
- ⑤「性別に関係なく社会進出(参加)ができています」について、性別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は男性 29.9%、女性 27.9%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は男性 41.9%、女性 46%だった。
年齢層別では、30 歳代までは「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高く、40 歳代以上で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が高かった。

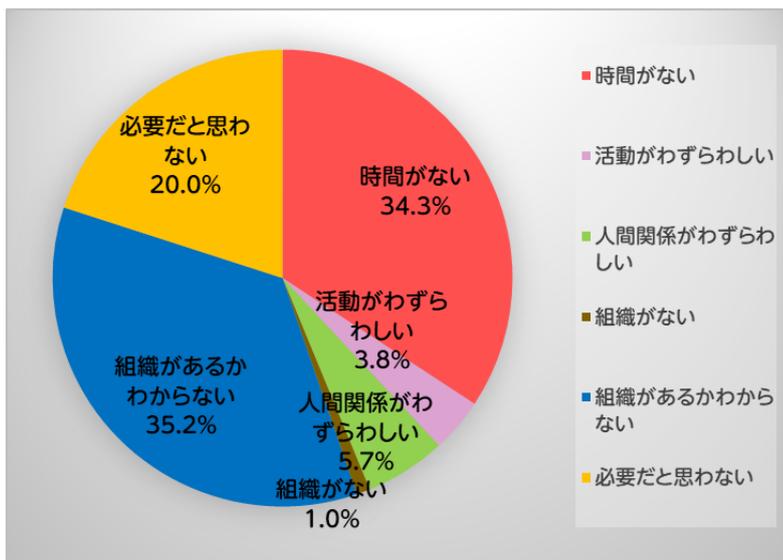
問17 過去5年間、地域でどのような活動に参加していますか。(回答を3つまで)



○過去5年間、地域でどのような活動に参加しているかについて回答割合順に「自治会・町内会の行事」(26.7%)、「地域でのお祭り」(17.3%)、「参加していない」(12.2%)だった。
 ○地区別では、3地区とも上位2項目は同様だったが、麻生地区及び北浦地区については「子ども会・育成会」が3番目の回答割合だった。

[問17で「11.参加していない」を選んだ方のみ回答]

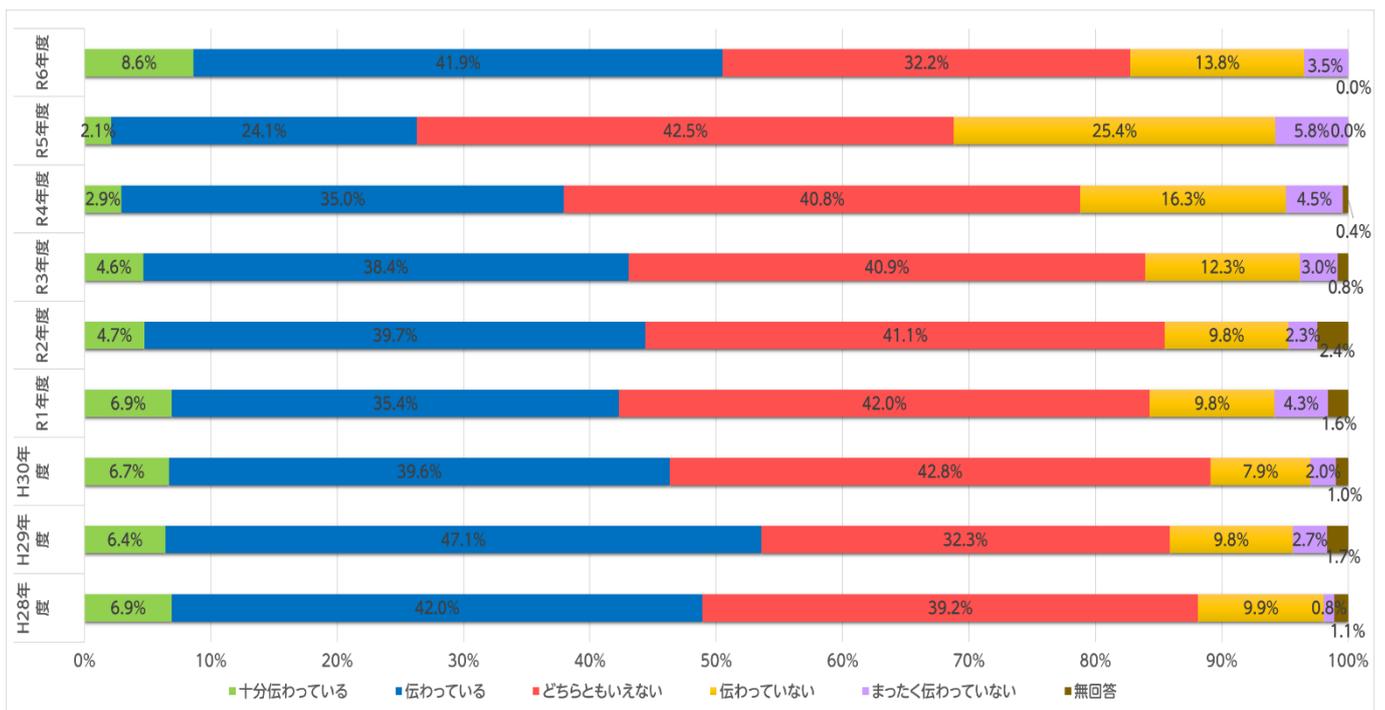
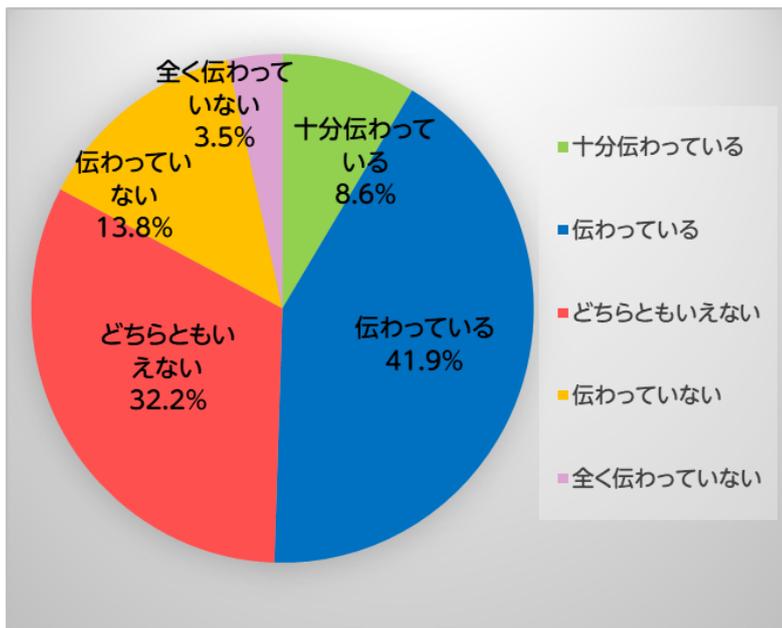
問18 活動に参加していない理由は何ですか。(回答を1つ)



○活動に参加していない理由について職業別では、会社員・公務員の48%が「時間がない」と回答し、自営業者の57.1%、農林水産業者の66.7%が「必要だと思わない」と回答した。
 ○年齢層別では、50歳代までは「時間がない」と回答した割合が最も高く、60歳代以上は「組織があるかわからない」、「必要だと思わない」と回答した割合が高かった。

7. 情報伝達について

問 19 行方市からの情報が十分に伝わっていますか。(回答を1つ)



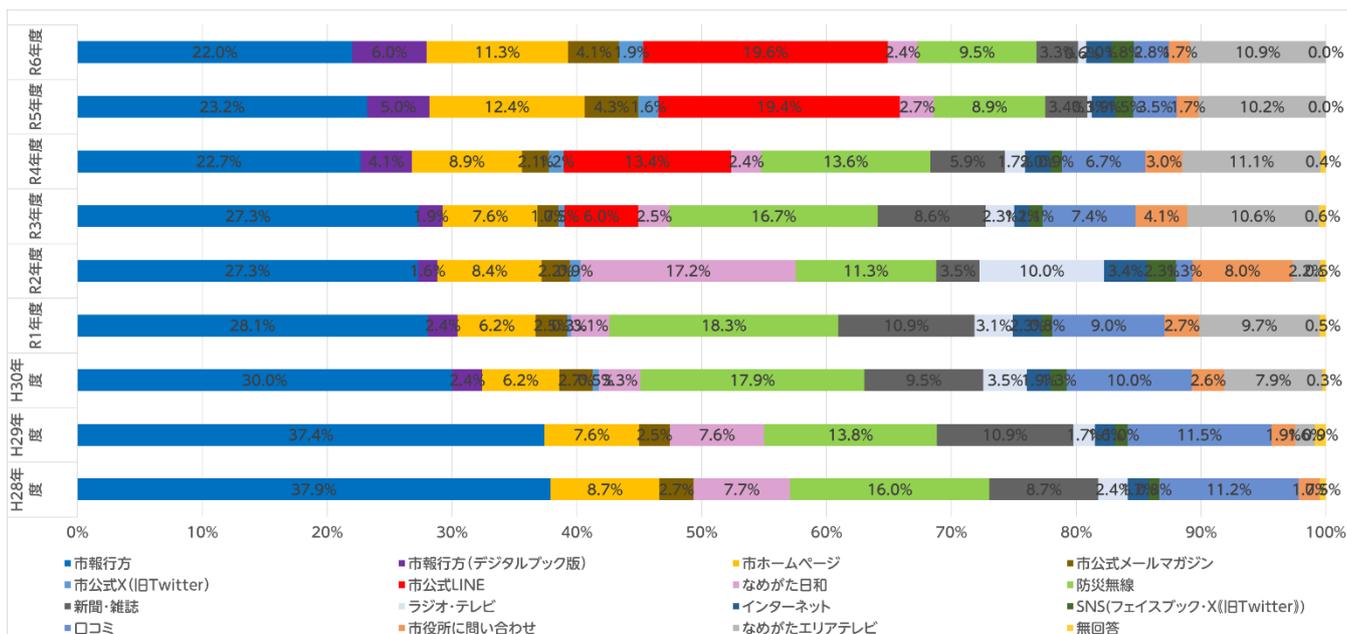
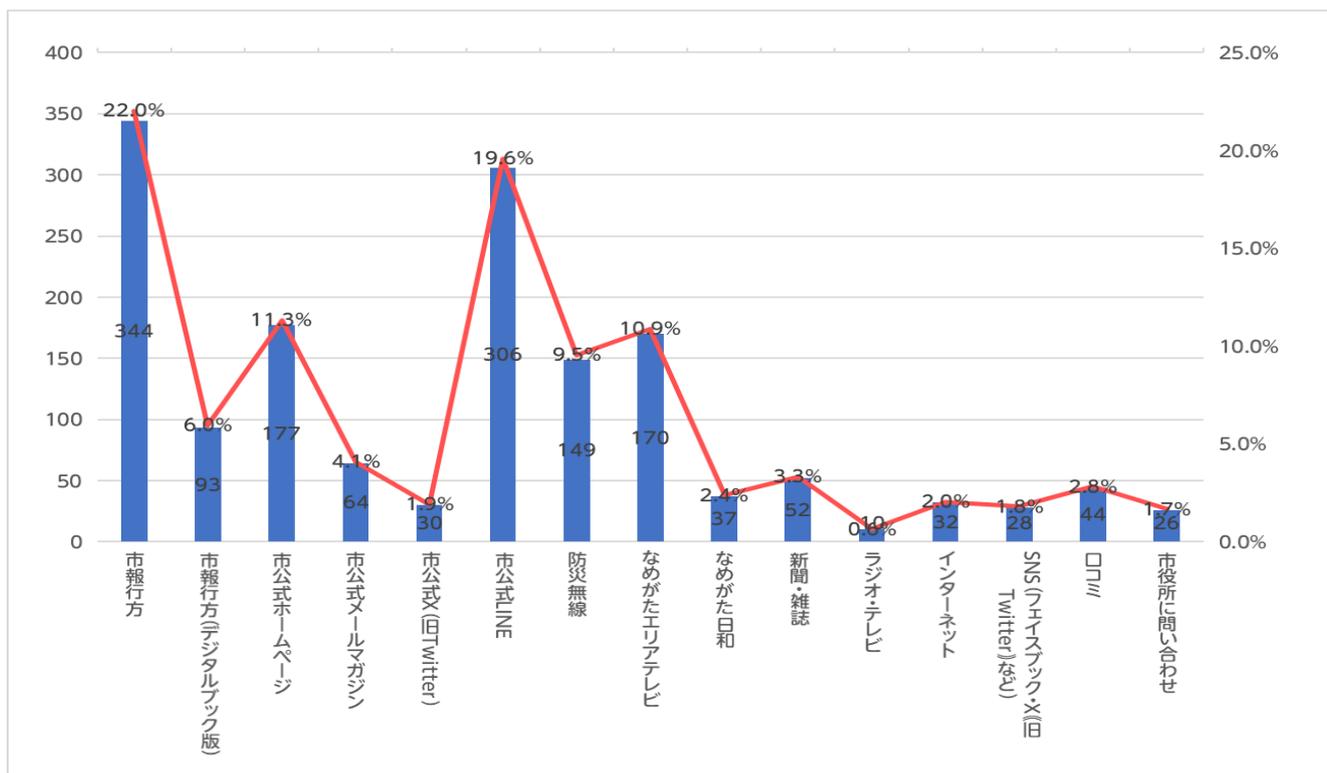
○市からの情報が十分に伝わっているかについて「十分伝わっている」「伝わっている」と回答した割合は50.5%だった。令和5年度に比べ24.3ポイント上昇した。「どちらともいえない」「伝わっていない」が10ポイント程度ずつ減少した。

○「伝わっていない」「全く伝わっていない」と回答した割合は17.3%で、令和5年度に比べ14ポイント減少した。

○年齢層別では、40歳代のみ「どちらともいえない」と回答した割合が最も高かったが、それ以外の層では「伝わっている」と回答した割合が最も高かった。

○職業別では、自営業者の46.4%が「どちらともいえない」と回答した。また、自営業者の21.5%が「十分伝わっている」「伝わっている」と回答し、32.2%が「伝わっていない」「全く伝わっていない」と回答しており、他の属性と異なり「伝わっていない」が上回る結果となった。

問20 主にどのような方法で、市政や市・地域の情報を得ていますか。(回答を5つまで)

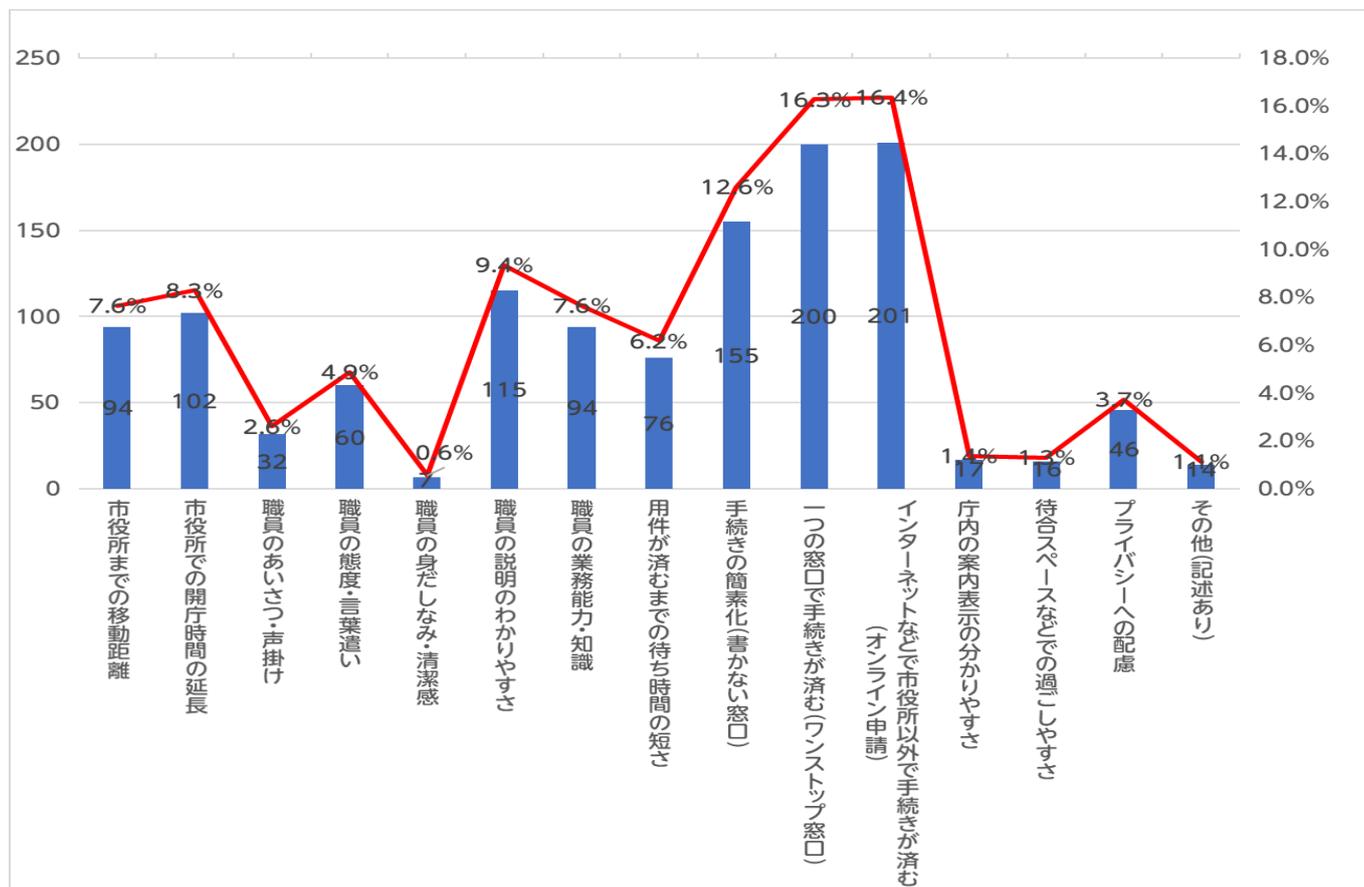


- 市政や市・地域の情報を得ている方法の回答割合順に、「市報行方」(22%)、「市公式LINE」(19.6%)、「市公式ホームページ」(11.3%)で、令和5年度と同様だった。
- 年齢層別では、40歳代まで「市公式LINE」と回答した割合が最も高かったが、年齢層が上がるにつれて「市公式LINE」と回答した割合が減少した。50歳代以降は「市報行方」と回答した割合が最も高かった。また、50歳代以上は「防災無線」、「なめがたエリアテレビ」と回答した割合が40歳代以下より高い傾向にあった。
- 「市報行方(デジタルブック版)」について、令和5年度と比べると1%増だが近年微増している。60歳代までは6%程度の回答があった。

【特集項目】

1.市民サービスの向上に向けた取り組みについて

問 21 「市役所窓口」に一番求めるものは何ですか。(回答を3つまで)



○「市役所窓口」に一番求めるものについて「一つの窓口で手続きが済む(ワンストップ窓口)」、「インターネットなどで市役所以外で手続きが済む(オンライン申請)」と回答した割合が高かった。

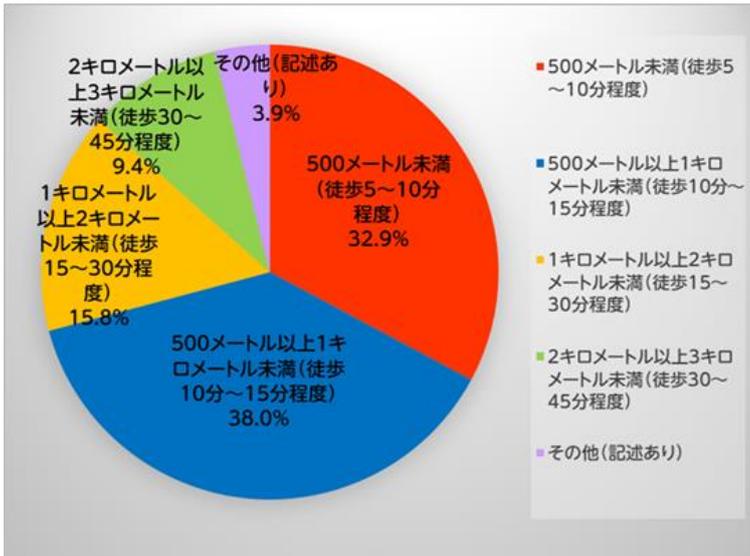
○年齢別では、若年層になるほど「インターネットなどで市役所以外で手続きが済む(オンライン申請)」と回答した割合が高かった。

○70歳代は「職員の説明のわかりやすさ」(13.3%)、「職員の業務能力・知識」(14.4%)と回答した割合が他の年齢層よりも高かった。

○職業、性別で大きな差はみられなかった。

問 22 どのくらいの距離であれば「徒歩圏内」といえますか。

(回答を1つ)

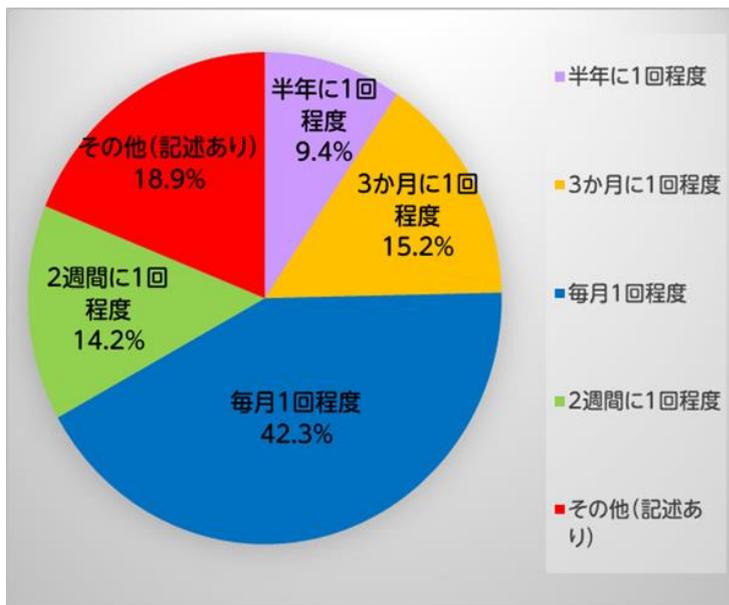


○「徒歩圏内」を「500メートル未満 (徒歩5～10分程度)」、「500メートル以上1キロメートル未満 (徒歩10～15分程度)」と回答した割合は70.9%だった。

○年齢層別では、回答者は少数であるが、ほぼ全ての年代で「2キロメートル以上3キロメートル未満 (徒歩30～40分程度)」の回答があった。

問 23 移動市役所車両が運行された際、各地区へどのくらいの頻度で巡行してほしいですか。

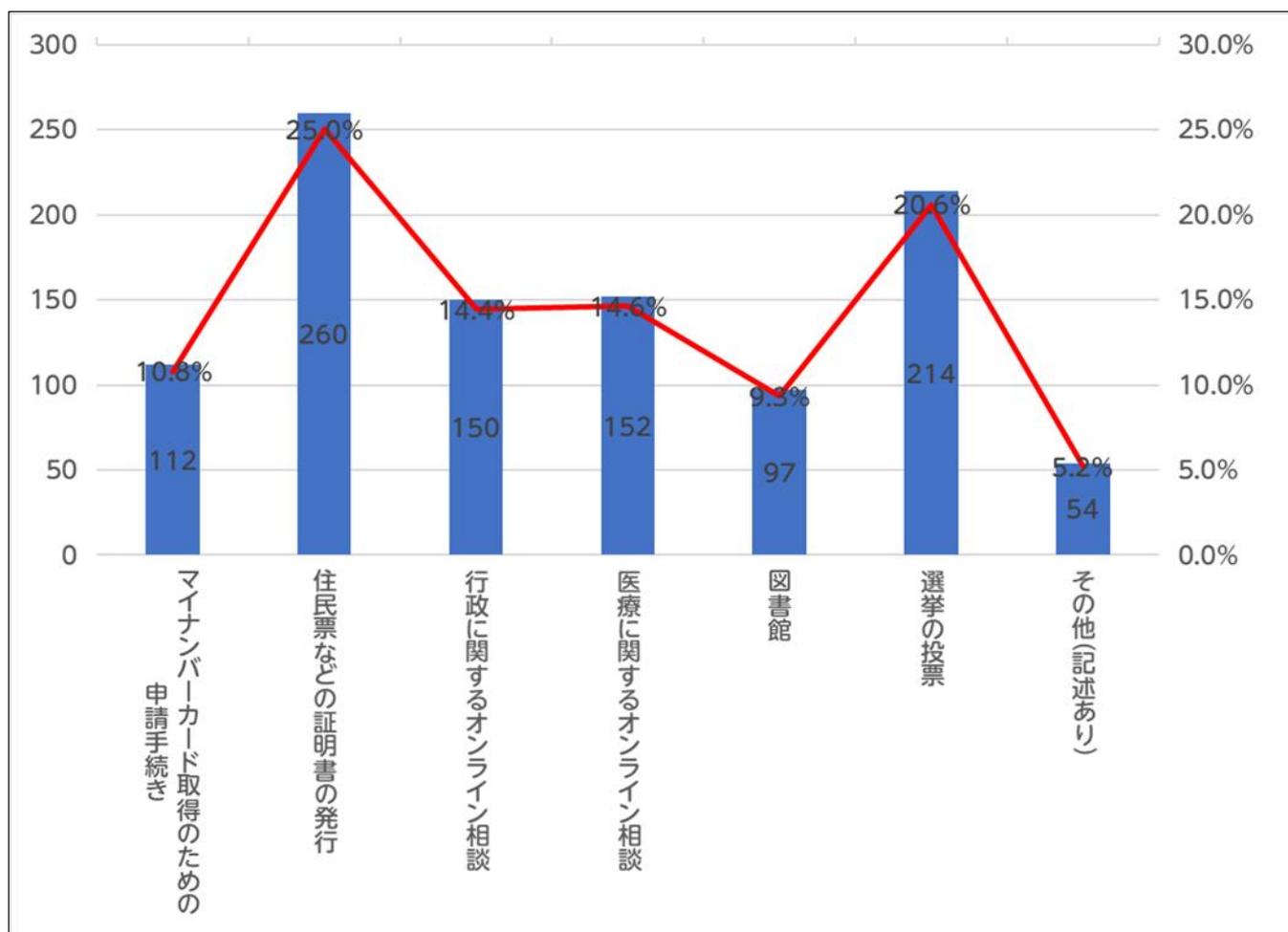
(回答を1つ)



○移動市役所車両が運行された際の各地区への希望巡行頻度について「毎月1回程度」と回答した割合が42.3%で最も高かった。

○「その他 (記述あり)」と回答した割合が18.9%で2番目に高く、「どんな事をしようとしているのかわからないので頻度もわからない」、「週1 (土日祝日)」、「電話連絡で訪問してほしい」、「特に必要ない」、「定期的な運行ではなく、予約に応じて対応する」等様々な記述があった。

問 24 移動市役所において、どのようなサービスを希望しますか。(あてはまるものすべて)



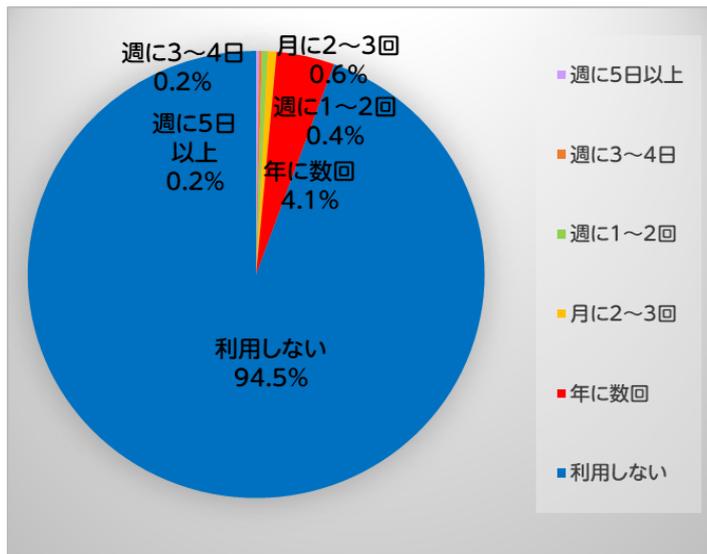
○移動市役所の希望サービスについて「住民票などの証明書の発行」と回答した割合が 25% で最も高かった。

○「選挙の投票」と回答した割合が 2 番目に高く、職業別では、農林水産業者の 33.3% がこれに回答した。年齢層別では、60 歳代は 23.8% がこれに回答し、60 歳代で最も高い回答割合だった。

2. 地域公共交通と移動手段について

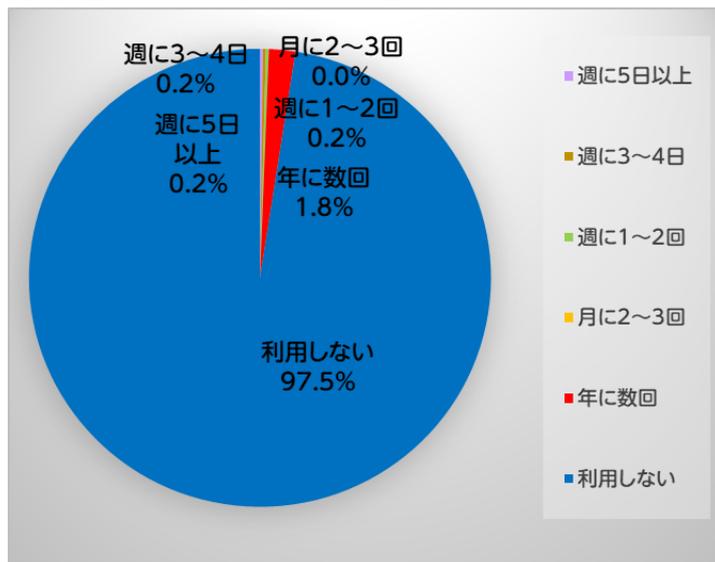
問 25 どのくらいの頻度で市営路線バスや乗合タクシー(ふれあい号)を利用しますか。(回答を1つ)

① 市営路線バス



○市営路線バスの利用頻度について「利用しない」と回答した割合は94.5%で最も高かった。
 ○年齢層別では、20歳代~70歳代までそれぞれ「年に数回」と回答した人が数人程度いた。
 ○「月に2回~3回」以上の頻度の回答はそれぞれ1~3人程度だった。

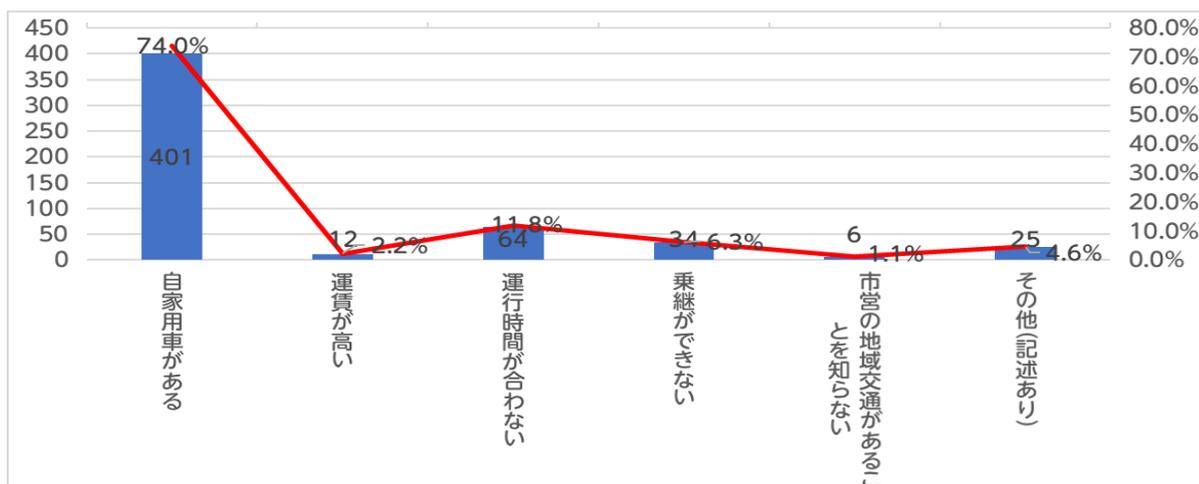
② 乗合タクシー(ふれあい号)



○乗合タクシー(ふれあい号)の利用頻度について「利用しない」と回答した割合は97.5%で最も高かった。
 ○「週に5日以上」「週に3~4日」「週に1~2回」の頻度の回答はそれぞれ1人だった。

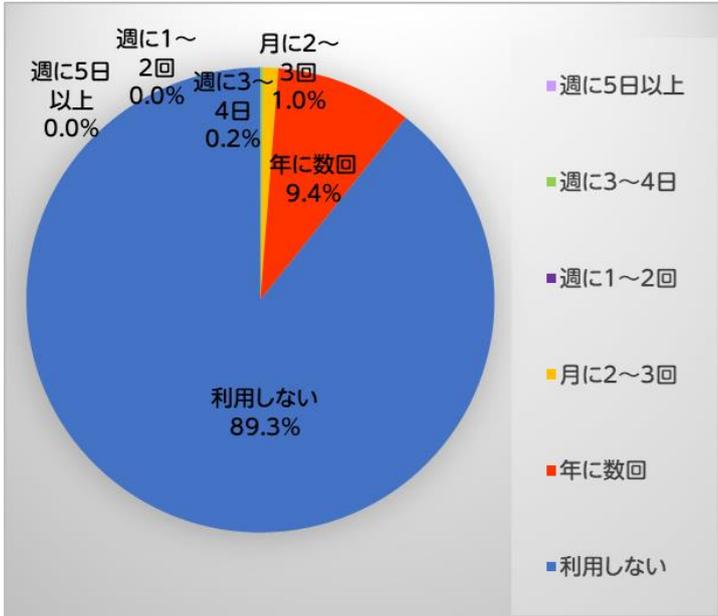
【問 25 で『6.利用しない』を選んだ方のみ回答】

問26 市営路線バスや乗合タクシー(ふれあい号)を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものすべて)



- 市営路線バスや乗合タクシー(ふれあい号)を利用しない理由について「自家用車がある」と回答した割合が74%だった。
- 「市営の地域交通があることを知らない」と回答した割合が1.1%だったことから、地域交通の認知度は高いことがわかる。
- 「運行時間が合わない」(11.8%)、「乗継ができない」(6.3%)の回答はどの年齢層でも一定程度回答があった。

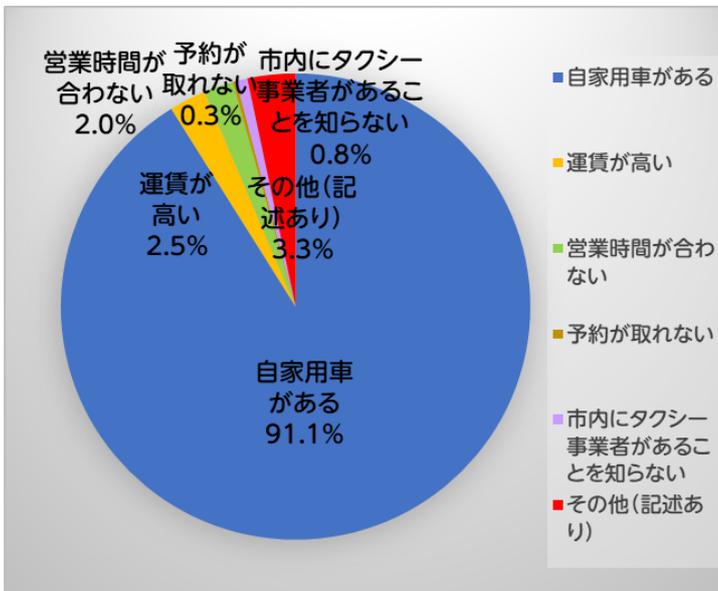
問27 どのくらいの頻度でタクシーを利用しますか。(回答を1つ)



- タクシーの利用頻度について「利用しない」と回答した割合は89.3%で最も高かった。「年に数回」と回答した割合は9.4%で2番目の高さだった。
- 年齢層別では、40、50、70、80歳代はタクシーを「年に数回」利用していると回答した割合が10%を超えた。

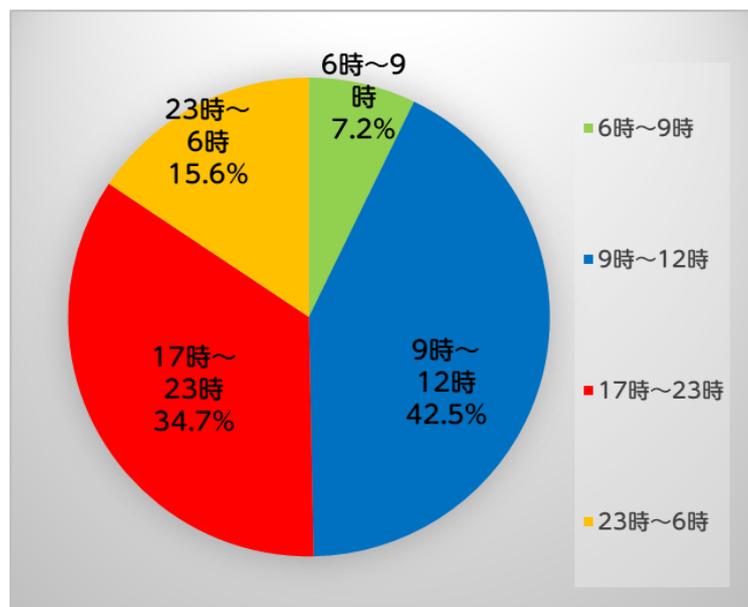
【問27で「6.利用しない」を選んだ方のみ回答】

問28 タクシーを利用しない理由は何ですか。(回答を1つ)



- タクシーを利用しない理由について「自家用車がある」と回答した割合は91.1%で最も高かった。
- 「その他(記述あり)」では、「自家用車があるため必要がない」「タクシー手配アプリが使えないから」「(同居家族で)車を運転できる人がいるから」などの記述があった。

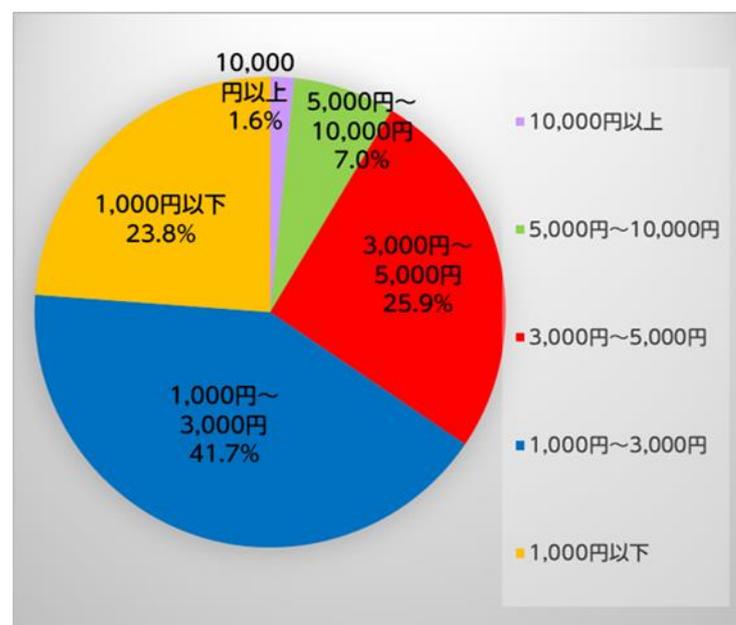
問 29 もしタクシーを利用する場合、利用したい時間帯を教えてください。(回答を1つ)



○タクシーの利用時間帯について、年齢層別では、50歳代以上では「9時～12時」と回答した割合が高く、40歳代以下では「17時～23時」と回答した割合が高かった。

○職業別では、会社員・公務員、自営業者は「17時～23時」と回答した割合が高く、他の属性は「9時～12時」と回答した割合が高かった。

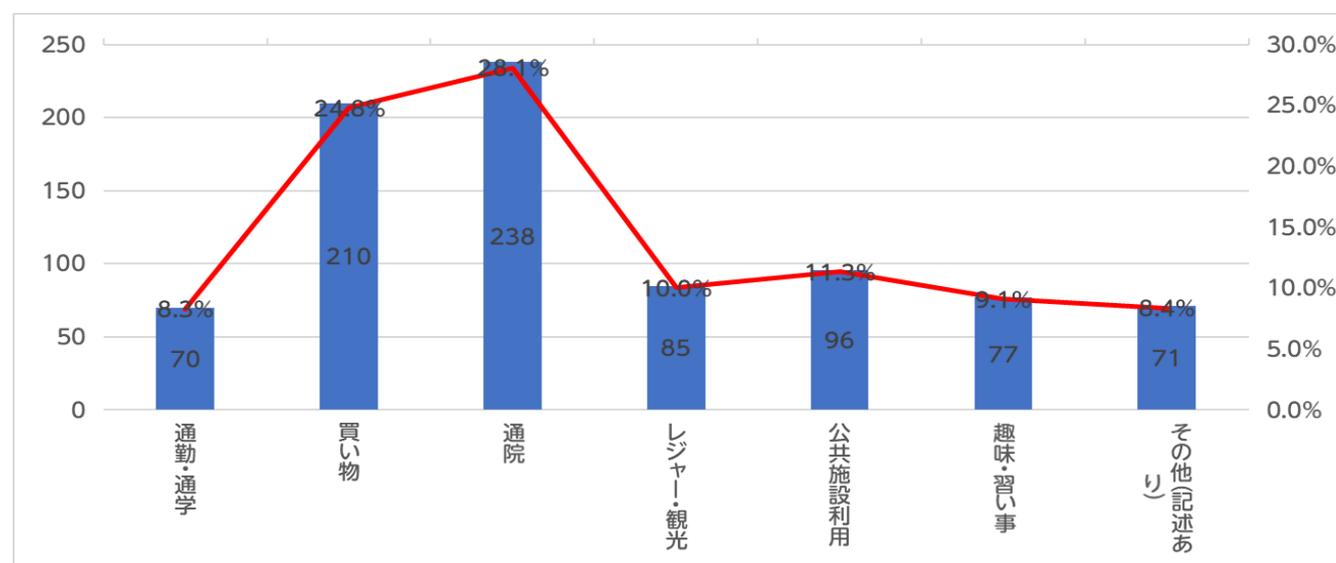
問 30 もしタクシーを利用する場合、運賃の限度額を教えてください。(回答を1つ)



○タクシー運賃の限度額として「1,000円～3,000円」と回答した割合が41.7%で最も高かった。「3,000円～5,000円」と回答した割合が25.9%で2番目に高かった。

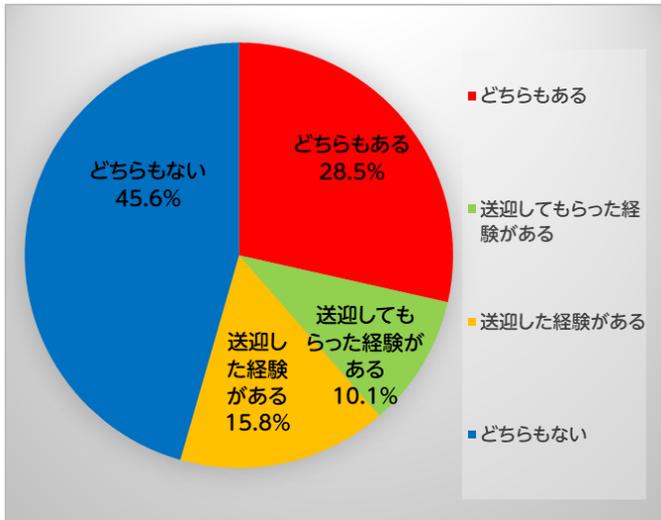
○年齢層別では、70歳代以降では「1,000円以下」と回答した割合が最も高かった。

問31 もしタクシーを利用する場合、主な利用目的を教えてください。(あてはまるものすべて)



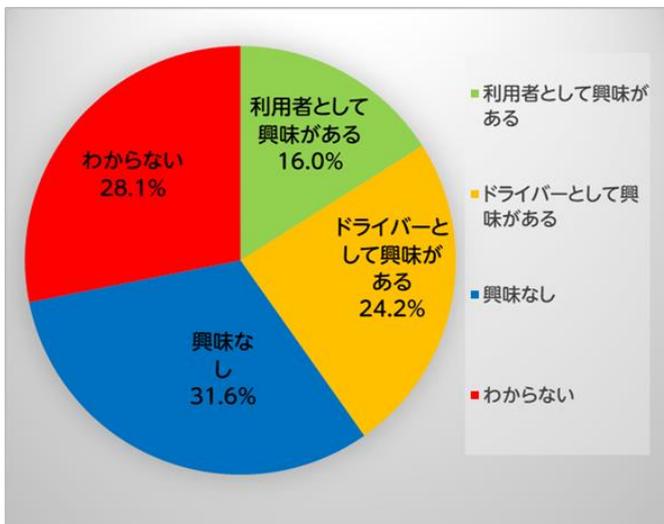
○タクシーを利用する場合の主な利用目的について「通院」と回答した割合は 28.1%で最も高かった。「買い物」と回答した割合は 24.8%で2番目に高かった。
 ○「その他」の自由記述では、「飲酒後の移動」の記述が多かった。他に、「体調不良で自分で運転できないとき」などが少数あった。

問32 家族以外の知人に頼んで、目的地まで送迎してもらった、または送迎した経験がありますか。
 (回答を1つ)



○家族以外の知人に頼んで、目的地まで送迎してもらった、または送迎した経験があるかについて「どちらもありません」と回答した割合が 45.6%で最も高かった。「どちらもあります」と回答した割合は 28.5%だった。
 ○「どちらもあります」と回答した割合は、若年層ほど高く(20歳代で 51.2%)、高齢層では低かった(70歳代で 9.4%)。

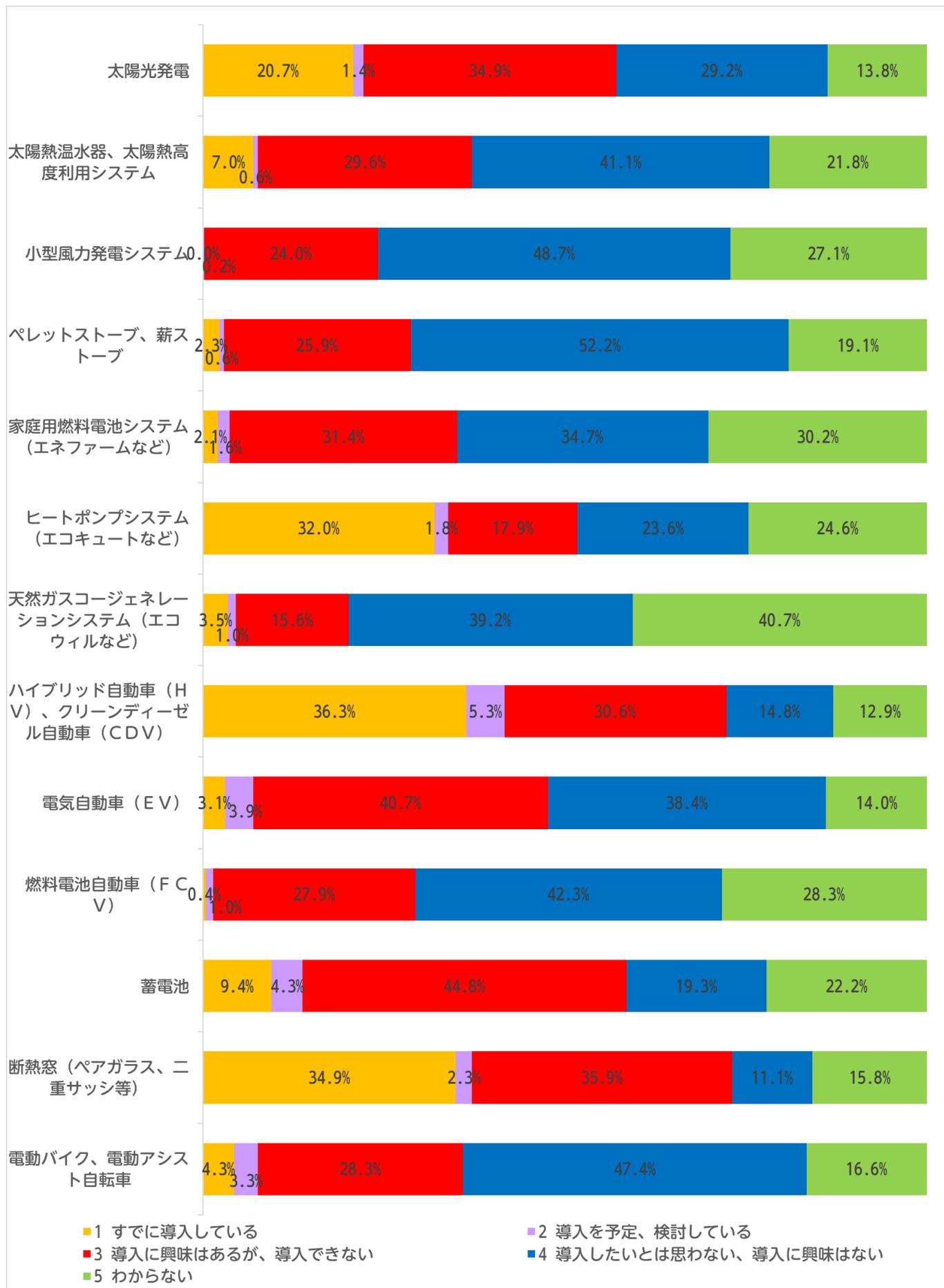
問33 ライドシェアの制度に興味関心がありますか。(回答を1つ)



○ライドシェアの制度に興味関心があるかについて「ドライバーとして興味がある」と回答した割合が最も高かった年齢層は、40歳代で 30.8%だった。
 ○「利用者として興味がある」と回答した割合が最も高かった年齢層は、70歳代で 31.3%だった。

特集3 地球温暖化問題及び再生可能エネルギーについて

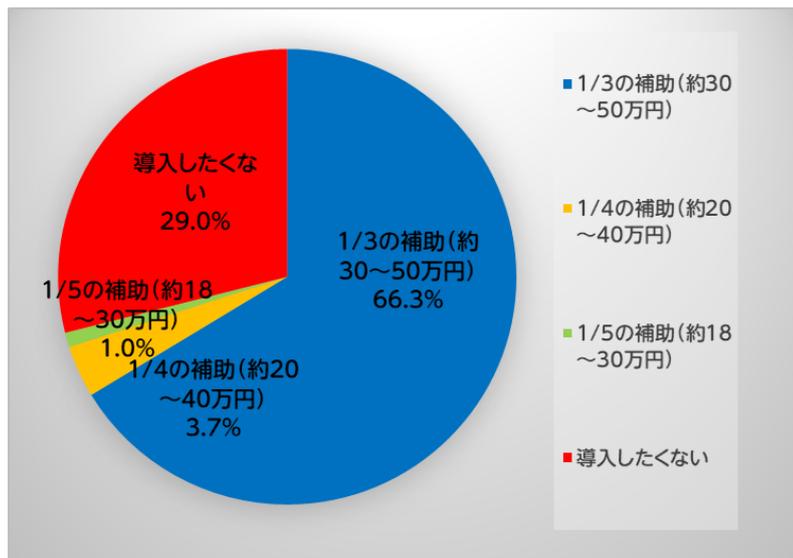
問 34 ご家庭で、どのような再生可能エネルギーを用いた設備や省エネルギーにつながる設備を導入していますか、もしくは導入したいと思いますか。(項目ごとに回答を1つ)



○「すでに導入している」「導入を予定、検討している」「導入に興味はあるが、導入できない」「導入したいとは思わない、導入に興味はない」「わからない」の5項目を設問として設定。

- ①「太陽光発電」について、「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が 34.9%で最も高かった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 20 歳代で 29.3%だった。
- ②「太陽熱温水器、太陽熱高度利用システム」について、「導入したいとは思わない、導入に興味はない」と回答した割合が 41.1%で最も高かった。40 歳代と 80 歳代以上で「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が 40%を超えた。
- ③「小型風力発電システム」について、「導入したいとは思わない、導入に興味はない」と回答した割合が 48.7%で最も高かった。「すでに導入している」の回答数は0だった。
- ④「ペレットストーブ、薪ストーブ」について、「導入したいとは思わない、導入に興味はない」と回答した割合が 52.2%で最も高かった。問 34 の設問の中で最も「導入したいとは思わない、導入に興味はない」の回答割合が高かった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 60 歳代で 6.3%だった。他の年齢層は0%もしくは1%だった。
- ⑤「家庭用燃料電池システム」について、「導入したいとは思わない、導入に興味はない」と回答した割合が 34.7%で最も高かった。「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が最も高かった年齢層は 40 歳代で 42.7%だった。
- ⑥「ヒートポンプシステム」について、「すでに導入している」と回答した割合が 32%で最も高かった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 40 歳代で 41%だった。
- ⑦「天然ガスコージェネレーションシステム」について、「わからない」と回答した割合が 40.7%で最も高かった。問 34 の設問の中で最も「わからない」の回答割合が高かった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 30 歳代で 7.4%だった。
- ⑧「ハイブリッド自動車」について、「すでに導入している」と回答した割合が 36.3%で最も高かった。問 34 の設問の中で最も「すでに導入している」「導入を予定、検討している」の回答割合が高かった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 50 歳代で 44.7%だった。
- ⑨「電気自動車」について、「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が 40.7%で最も高かった。「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が最も高かった年齢層は 70 歳代で 56.3%だった。
- ⑩「燃料電池自動車」について、「導入したいとは思わない、導入に興味はない」と回答した割合が 42.3%で最も高かった。「導入を予定、検討している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 40 歳代で 2.6%だった。
- ⑪「蓄電池」について、「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が 44.8%で最も高かった。問 34 の設問の中で最も「導入に興味はあるが、導入できない」の回答割合が高かった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 20 歳代で 14.6%だった。
- ⑫「断熱窓」について、「導入に興味はあるが、導入できない」と回答した割合が 35.9%で最も高かった。「すでに導入している」と回答した割合が 34.9%で僅差だった。「すでに導入している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 40 歳代で 53%だった。
- ⑬「電動バイク、電動アシスト自転車」について、「導入したいとは思わない、導入に興味はない」と回答した割合が 47.4%で最も高かった。「導入を予定、検討している」と回答した割合が最も高かった年齢層は 60 歳代で 7.6%だった。

問 35 太陽光発電設備(家庭用ソーラーパネルなど)に接続する蓄電池を導入するために、どのくらいの補助金があれば導入しようと思いますか。補助金なしの場合、およそ90万円～160万円／台の費用。(回答を1つ)

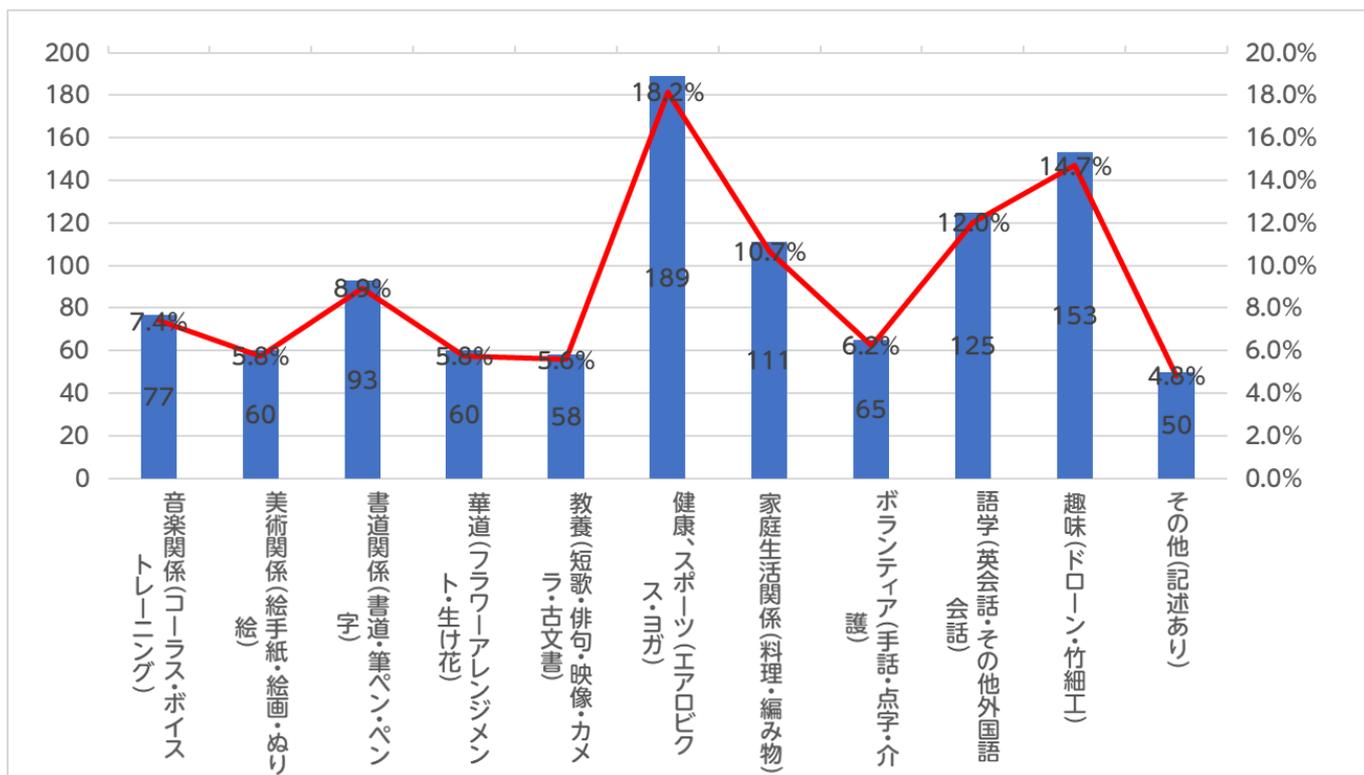


○太陽光発電設備に接続する蓄電池を導入するために、どのくらいの補助金があれば導入しようと思うかについて、1/5以上の補助があれば導入したいと回答した割合は71%で、「導入したくない」と回答した割合の29%を大きく上回った。

○補助金額について「1/3の補助(約30～50万円)」と回答した割合が66.3%で最も高かった。

特集4 社会教育に関することについて

問 36 公民館での講座について、どのような講座の開催を希望しますか。(回答を3つまで)

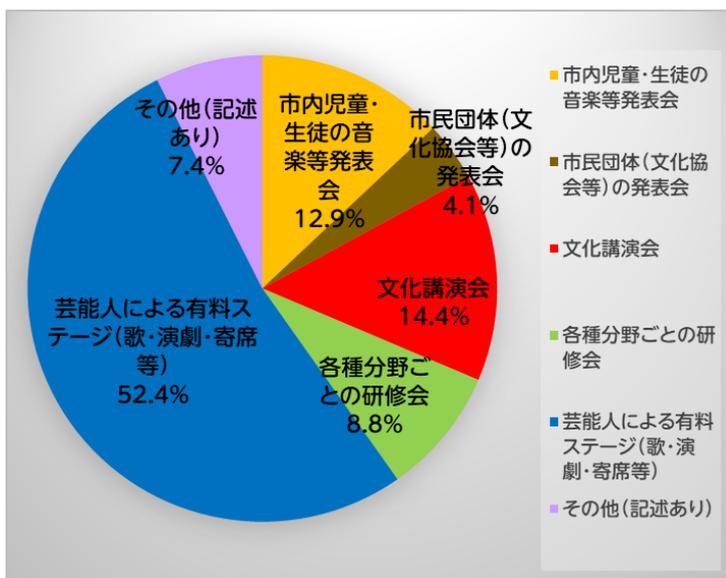


○公民館での開催希望講座について「健康、スポーツ(エアロビクス、ヨガ)」と回答した割合が18.2%で最も高かった。これに回答した割合が最も高かった年齢層は60歳代で24.8%だった。

○「趣味(ドローン、竹細工)」と回答した割合は14.7%で2番目に高かった。

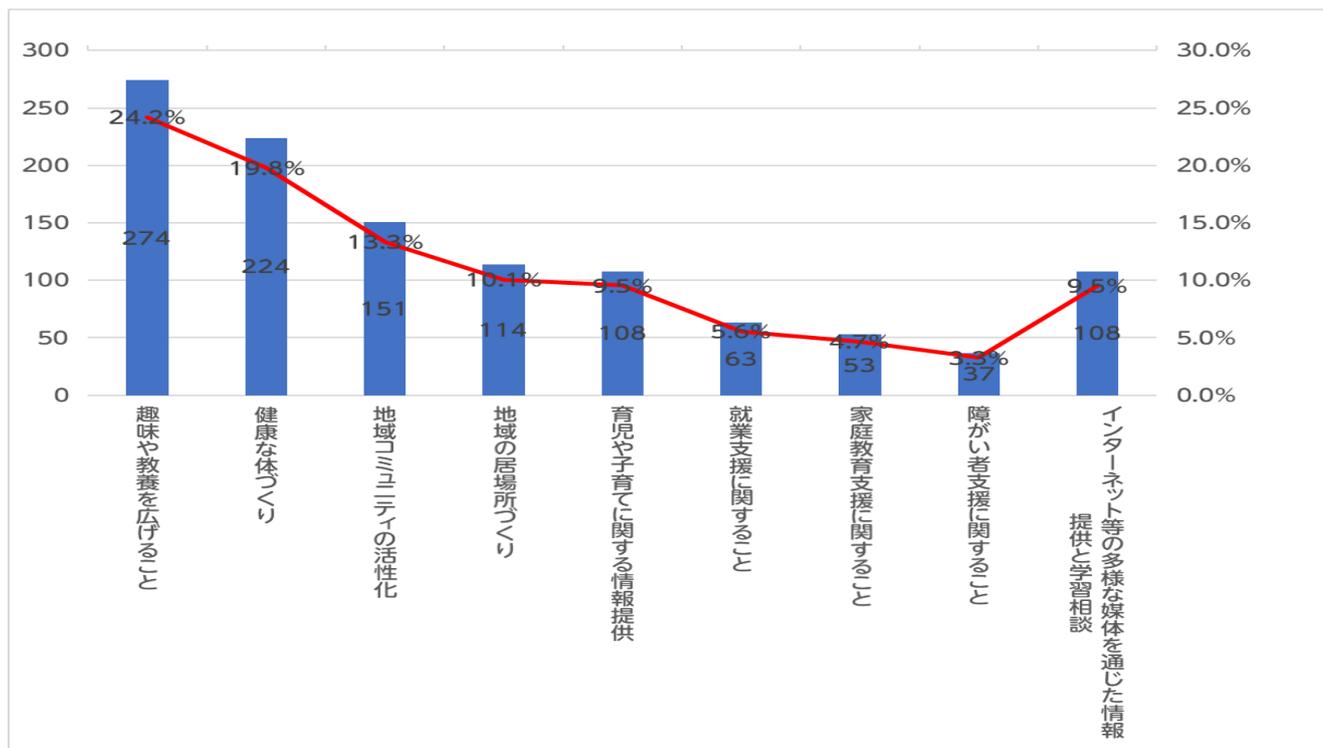
○10歳代・20歳代の若年層では「語学(英会話・その他外国語会話)」と回答した割合が高かった。

問 37 今後の文化会館事業において、どのような催し物を希望しますか。(回答を1つ)



○文化会館事業での希望する催し物について「芸能人による有料ステージ(歌・演劇・寄席等)」と回答した割合が52.4%と最も高かった。
 ○その他の記述では、「親子で参加できる単発の講座」、「歴史講座」、「パソコン教室、スマホ教室」など多くの記述があった。「興味がない」との記述も複数あった。

問 38 生涯学習でどのような取り組みを期待しますか。(回答を3つまで)



○生涯学習での希望する取り組みについて「趣味や教養を広げること」と回答した割合が24.2%で最も高かった。
 ○年齢層別では、30歳代までの層では「育児や子育てに関する情報提供」と回答した割合が高く、50歳代以上は「健康な体づくり」と回答した割合が高かった。
 ○職業別では、自営業者は「インターネット等の多様な媒体を通じた情報提供と学習相談」と回答した割合が15.1%で、他の職業よりも高かった。